

資料1 森林ボランティア参加者アンケート調査票

アンケート調査にご協力をお願いいたします。 ※ 個別の結果が公表されることはありません。

まず、あなたのことについて教えてください

※ 当てはまる番号に○をつけてください。

- a. 性別は？ 1) 男性 2) 女性
 b. 年齢は？ 1)10代以下 2)20代 3)30代 4)40代 5)50代 6)60代 7)70代以上
 c. 職業は？ 1) 学生 2) 会社員 3) 公務員 4) 自営業（農業含む） 5) 団体職員
 6) パート・アルバイト 7) 主婦 8) 無職 9) その他（ ）
 d. ご住所は？ 1)石狩市（ ）：地区名 2)石狩市以外の市町村（ ）：市町村名

e. どのくらいひんぱんに参加していますか？

- 1) ほとんど毎回参加 2) 2回に1回位参加 3) 3回に1回位参加
 4) 年間に数回参加（3よりは少ないくらい） 5) 今回がはじめて

f. (この団体の活動と他団体での活動・研修会等を合わせた場合)

森林ボランティア活動(森林現場作業)へのあなたの参加頻度は？

最近の経験を
お答え下さい

- 1) 今回がはじめて 2) はじめてではないが年に3~4回以下の参加
 3) 年に5~6回位参加 4) 3)と5)の間
 5) 毎月1回(=年に12回)位参加 6) 毎月2回位参加 7) 毎月3回位参加
 8) 毎月4回位参加 9) 8)より多く参加 10) その他（ ）

問1

あなたが、この団体の活動に参加する目的はなんですか？

※ 特に、お考えに近いものを、**2つ**選んで、**□に番号をご記入ください**。

- 1) 地域の森林とふれあい、レクリエーションとして作業そのものを楽しむ
 2) アウトドア・スポーツとして、作業で体力づくりをする
 3) 学習の場として、森林の手入れの技術や森林に関する知識を身につける
 4) 人との出会いの場として、参加メンバーや地域の人と交流する
 5) 労働力を提供し、地域の森林づくりに役立つ
 6) その他（ ）

あなたの目的： ① と ②

問2

今日の活動では、あなたが **問1** で選んだ2つの目的(①と②)は、どのくらい達成されたと思いますか？ 5段階評価でお答えください。

例えば、問1で、4)と5)を選んだ場合

- ①「4) 人との出会いの場として、参加メンバーや地域の人と交流する」は **達成度5** (十分達成)、
 ②「5) 労働力を提供し、地域の森林づくりに役立つ」は **達成度3** (中くらい達成) ならば、

記入例

問1での番号を記入して、達成度に○をつけます

- ① **4** については 1 2 3 4 **5**
 ② **5** については 1 2 **3** 4 5

回答欄

- ① については 1 2 3 4 5
 ② については 1 2 3 4 5
 (未達成) (中くらい達成) (十分達成)

**裏面に
続きます**

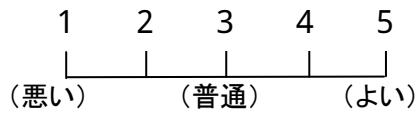
問3

今日の活動に対する満足度はどれくらいでしたか？

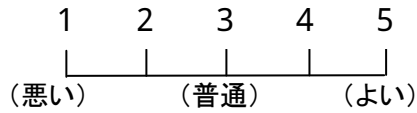
5段階評価でお答えください。

おもて面の **問2** と同様に、**あてはまる数字に○をつけてください。**

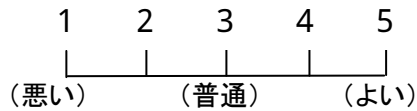
(1) 一帯の山林のたたずまい・雰囲気



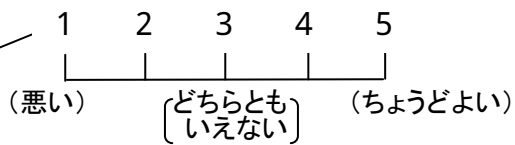
(2) 自宅から集合場所までの交通、
移動のしやすさ (アクセス)



(3) 森林作業の内容 (活動メニュー)
のよさ



(4) 作業のボリューム (時間・量)

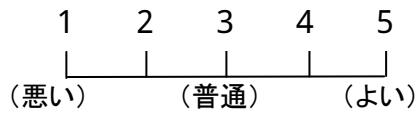


1 または 2 を選んだ方

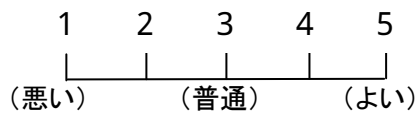
作業のボリュームは、① 自分には不足
② 自分には過多

①・②のどちらかに○をつけてください

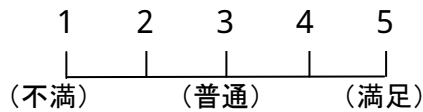
(5) 指導内容のわかりやすさ



(6) 日程の流れ・段取りのよさ



(7) 今日の活動の総合的な満足度

**問4**

その他、今後の活動についてのお考え、今日の活動への感想など、
ご自由にご記入ください。



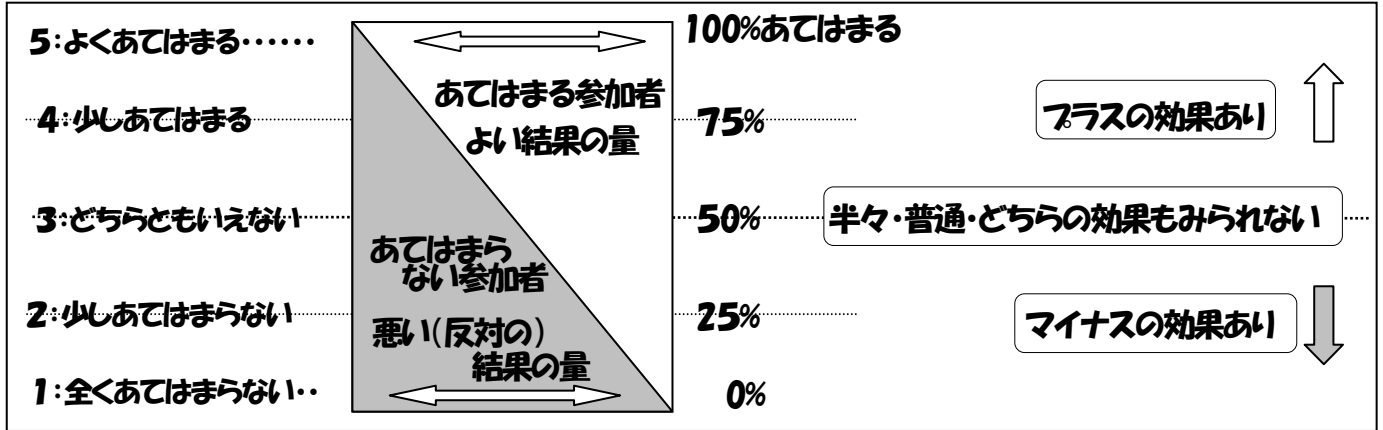
ご協力ありがとうございました。

北海道立林業試験場

資料2 森林ボランティア活動スタッフアンケート調査票

◆ 活動日： 月 日 () ◆ 団体名： ()
 ◆ 記入日： 月 日 ()

今回の活動について、口内の指標を参考に5段階評価でお答えください。



※ 問1～25の回答欄の当てはまる数字に○をつけてください。

○のつけ方は、「参加者全体にとってどうだったか(客観的な判断)」です。

回答欄

- | | 全く
あてはまらない | 少し
あてはまらない | どちらとも
いえない | 少し
あてはまる | よく
あてはまる |
|--|---------------|---------------|---------------|-------------|-------------|
| 問1 集合場所は、参加者にとって自宅からの移動の負担が軽く、便利な所が選ばれていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 問2 集合場所はわかりやすい所だった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 問3 参加者数に対し、集合場所等の駐車場の広さは十分だった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 問4 活動現場は、参加者にとって下車からの移動の負担が軽く、便利な所だった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 問5 トイレ、昼食・休憩場所等は、安心して使える施設、スペースがあった(当日活動した場所を総合して) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ----- | | | | | |
| 問6 作業現場の傾斜や林床は、作業しやすい状態だった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 問7 作業は、参加者にとって体に負担をかけないボリュームだった | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 問8 活動日程は、参加者に十分伝わっていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 問9 安全に対する注意は、参加者に十分伝わっていた | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 問10 日程はおおむね予定通り進んだ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

〔全くあてはまらない〕〔少しあてはまらない〕〔どちらともいえぬ〕〔少しあてはまる〕〔よくあてはまる〕

問11 一帯の森林は、眺めや景色のよいところだった

1 2 3 4 5

問12 一帯の森林は、季節感がかんじられる場所だった

1 2 3 4 5

問13 一帯の森林は、鳥や昆虫、山野草など生物が豊かな場所だった

1 2 3 4 5

問14 日程にゆとりがあり、適度に休憩時間がとられていた

1 2 3 4 5

問15 休憩等は、リラックスした楽しい雰囲気だった

1 2 3 4 5

問16 会話が弾んだ場面があった

1 2 3 4 5

問17 協力し合ってグループ作業が行われていた

1 2 3 4 5

問18 作業は、参加者にとって体力を発散できるボリュームだった

1 2 3 4 5

問19 作業の種類・内容は、参加者の技術レベルに合っていた

1 2 3 4 5

問20 作業の種類・内容は、参加者の関心に合っていた

1 2 3 4 5

問21 作業終了時、参加者が今回の作業の成果を実感できていた

1 2 3 4 5

問22 指導は資料やパネルの使用、実演等を交え、わかりやすいものだった

1 2 3 4 5

問23 指導に対する質問や指導者の投げかけへの豊かな反応があった

1 2 3 4 5

問24 指導内容（技術・知識）は、参加者に十分理解されていた
（→目安：正しい手順が身についたか）

1 2 3 4 5

問25 作業の目的（必要性・意味）は、参加者に十分伝わっていた
（→目安：参加者が今日の経験を周囲に説明できるか）

1 2 3 4 5



(全く重要でない) (かなり重要でない) (やや重要でない) (どちらともいえない) (やや重要) (かなり重要) (非常に重要)

問16 参加者の会話が弾むこと

1 2 3 4 5 6 7

問17 協力し合ってグループ作業が行われること

1 2 3 4 5 6 7

問18 作業が、参加者にとって体力を発散できる
ボリュームであること

1 2 3 4 5 6 7

問19 作業の種類・内容が、参加者の技術レベルに合うこと
(参加者の技術レベルを知ること)

1 2 3 4 5 6 7

問20 作業の種類・内容が、参加者の関心に合うこと
(参加者の関心を知ること)

1 2 3 4 5 6 7

問21 作業終了時、参加者が今回の作業の成果を実感
できること (話題にすること)

1 2 3 4 5 6 7

問22 資料やパネルの使用、実演等を交え、わかりやすく
指導すること

1 2 3 4 5 6 7

問23 指導に対する質問や指導者の投げかけに豊かな反応
があること (やりとりしやすい雰囲気を作ること)

1 2 3 4 5 6 7

問24 指導の結果、参加者に正しい作業手順・知識が
身につくこと

1 2 3 4 5 6 7

問25 指導の結果、作業の目的が参加者に伝わること
(参加者がその日の経験を周囲にも説明できること)

1 2 3 4 5 6 7

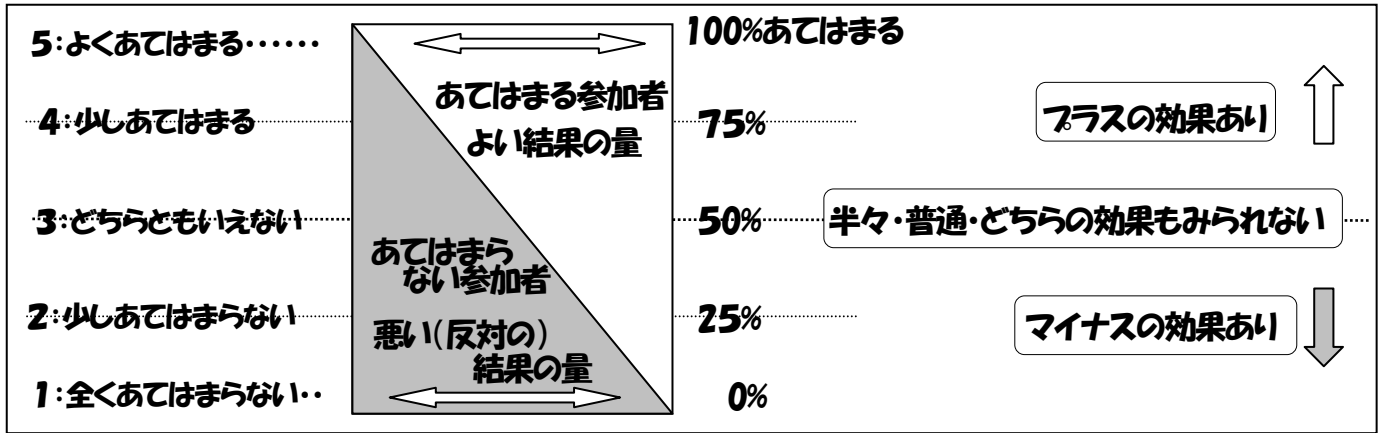
ご協力ありがとうございました。

北海道立林業試験場

資料4 森林ボランティア活動チェックリスト

◆ 活動日： 月 日 () ◆ 団体名： ()
 ◆ 記入日： 月 日 ()

今回の活動について、下記を参考に、問1～14の回答欄の当てはまる数字に○をつけてください。



※ ○のつけ方は、「参加者全体にとってどうだったか(客観的な判断)」です。

	回答欄					重要度
	(全くあてはまらない)	(少しあてはまらない)	(どちらともいえない)	(少しあてはまる)	(よくあてはまる)	
問1 指導内容(技術・知識)は、参加者に十分理解されていた(→目安:正しい手順が身についたか)	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>
問2 指導は資料やパネルの使用、実演等を変え、わかりやすいものだった	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>
問3 指導に対する質問や指導者の投げかけへの豊かな反応があった	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>
問4 休憩等は、リラックスした楽しい雰囲気だった	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>
問5 会話が弾んだ場面があった	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>
問6 日程にゆとりがあり、適度に休憩時間がとられていた	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>
問7 集合場所は、参加者にとって自宅からの移動の負担が軽く、便利な所が選ばれていた	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>
問8 集合場所はわかりやすい所だった	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>
問9 トイレ、昼食・休憩場所等は、安心して使える施設、スペースがあった(当日活動した場所を総合して)	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>
問10 参加者数に対し、集合場所等の駐車場の広さは十分だった	1	2	3	4	5	<input type="checkbox"/>

重要度

(全くあてはまらない) (少しあてはまらない) (どちらともいえない) (少しあてはまる) (よくあてはまる)

問11 日程はおおむね予定通り進んだ

1 2 3 4 5 []

問12 安全に対する注意は、参加者に十分伝わっていた

1 2 3 4 5 []

問13 作業終了時、参加者が今回の作業の成果を実感できていた

1 2 3 4 5 []

問14 活動日程は、参加者に十分伝わっていた

1 2 3 4 5 []



チェックリストの活用方法

- ◇ 記載例に従って5段階評価で回答します。質問項目の分野は以下の通りです。評価の高い分野、低い分野はどこでしょうか？

問1～問3：「指導」 問4～問6：「交流」 問7～問10：「利便性」 問11～問14：「対話性」

- ◇ 「重要度」の欄に、5段階ないし7段階評価で各質問項目の重要度を記載します。7段階評価は、5段階評価では質問項目毎の違いが評価しづらい（メリハリのある評価がしづらい）場合に行います。

評価結果と重要度を掛け合わせた数値をその質問項目の「得点」とします。今度は、得点の高い分野、低い分野はどこでしょうか？

5段階/7段階評価

例

重要度 得点

問1 指導内容（技術・知識）は、参加者に十分理解されていた

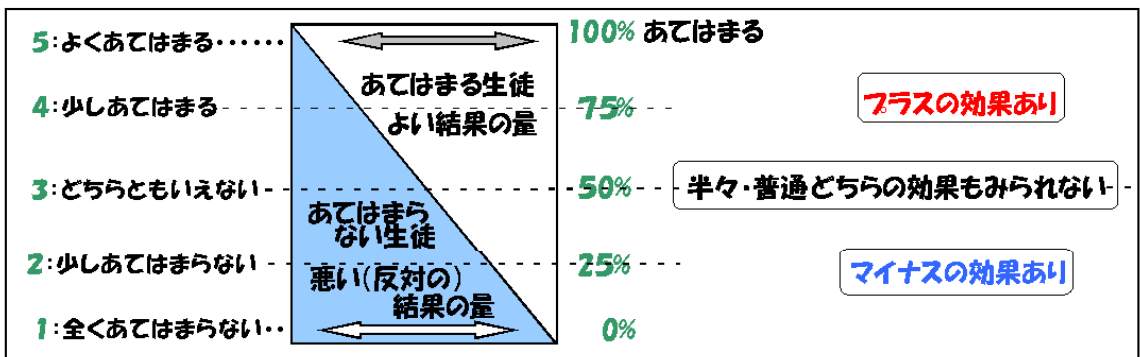
1 2 3 4 5 × 4 = 12

- ◇ 問1～14以外に、「指導」、「交流」、「利便性」、「対話性」の4分野に関連して、重要な項目があればチェックリストに加え、重要度の低いものは削除して構いません。
- ◇ 「指導」、「交流」、「利便性」、「対話性」の4分野にこだわらず、あなたの関係する組織にとって重要な項目があればチェックリストに加え、全体を調節します。
- ◆ 以上の手順でオリジナルのチェックリストをつくることができます。チェックリストは、スタッフが活動運営上の留意点を共有し、運営を活性化するための仕掛けです。当リストを土台にして、よりよい活動づくりを進めてください。

※ 当てはまる番号に○をつけてください。

- a. 性別は？ 1) 男性 2) 女性
- b. 年齢は？ 1) 10代以下 2) 20代 3) 30代 4) 40代 5) 50代 6) 60代 7) 70代以上
- c. 職業は？ 1) 学生 2) 会社員 3) 公務員 4) 教員 5) 自営業（農業含む） 6) 団体職員
7) パート・アルバイト 8) 主婦 9) 無職 10) その他（ ）
- d. 所属は？ 1) いしかりクワラ 2) 北広島メイプル 3) コープ さっぽろ 4) 札幌ウディーズ
5) 当別ウカバ 6) 藻岩山きのご観察会 7) 札幌市森林組合 8) 南高（学校林）
9) 札幌市職員 10) 森づくりセンター 11) その他道職員
- e. あなたの森林ボランティア活動（森林現場作業、またはその実技指導）への参加頻度は？
1) 今回がはじめて 2) 数年に1回位参加 3) 年に1回位
4) 年に2回位 5) 年に3～4回位
6) 年に5～6回位 7) 6)と8)の間
8) 毎月1回（二年に12回）位参加 9) それより多く参加→ 毎月 〇 回位参加
- f. 南高等学校林整備（定時制・全日制合わせて）への参加は？
1) 今回がはじめて 2) 経験あり→ 今回は 〇 回目
- g. 今回の役割は？ 1) 担当グループあり 2) 担当グループなし（巡回指導）

問1 今回の活動について、次の指標を参考に5段階評価で、数字に○をつけてください。



生徒とのコミュニケーションについて

- (1) 安全（道具・伐倒木・ハチ他）に対する注意は、担当グループ内の生徒に十分伝わっていた
 (☆担当グループのなかった方は、自分が見聞き・関係した範囲でお答え下さい。以下同じ)
- (2) 作業手順・受け持ち（自分が何をしたらよいか）は、担当グループ内の生徒に十分伝わっていた
- (3) 生徒から質問がでたり、スタッフ（あなた）の投げかけに豊かな反応がみられた
- (4) 協力し合ってグループ作業が行われた
- (5) メンバー（生徒・スタッフ）が打ち解け、リラックスした楽しい雰囲気の間もあつた

裏面に続きます

**資料6 市民参加による地域森林管理に関する意識調査
報告書：森林所有者アンケート調査結果**

2005年2月



目次



調査の概要	2
集計結果	4
問1 森林所在地について	4
問2 所有森林面積について	5
問3 所有人工林面積について	6
問4 所有森林の境界について	7
問5 森林所有目的について	8
問6 最近5年間の施業について	9
問7 森林手入れ状態について	10
問8 森林経営上の問題について	12
問9 今後の林業経営規模について	14
問10 地域森林管理について	15
問11 森林借り上げについて	16
問12 所有森林に対する借り上げ依頼について	17
問13 森林市民協議への参加について	18
問14 森林ボランティアへの認知について	19
問15 森林ボランティアへの評価について	20
問16 森林ボランティアへの期待内容について	21
他調査との比較Ⅰ	22
問17 森林ボランティアへの所有森林提供について	23
他調査との比較Ⅱ	24
問18 提供しない理由について	25
問19 森林ボランティアへの不安について	26
他調査との比較Ⅲ	26
問20 森林ボランティア受け入れ条件について	28
問21 森林ボランティアに依頼したい作業について	30
他調査との比較Ⅳ	31
問22 森林提供以外で森林ボランティアにできる協力について	32
他調査との比較Ⅴ	33
問23 自由回答から	34

調査の概要

目的

北海道では立場の異なる人々による「協働の森づくり」が、森林づくりの基本理念に掲げられています。こうした取り組みを今後とも盛りたてて行くには、例えば、活動場所の確保等のため、森林所有者と森林ボランティアグループの連携が大切です。そのため今回、森林ボランティアに対する森林所有者の意向を把握し、「協働の森づくり」をサポートする施策に反映するため、本調査を実施しました。

内容

調査の内容は以下の通りです。

- (1) 森林管理の現状、今後の管理の予定 ⇒ 問1～9
- (2) 地域森林管理に対する考え方 ⇒ 問10～13
- (3) 森林ボランティアに対する考え方 ⇒ 問14～22
- (4) 森林管理や森林ボランティアに関する意見 ⇒ 問23（自由回答）

設計

対象は以下の通りです。

石狩支庁ないし網走支庁管内に森林を所有する個人	2,698名
石狩支庁在村森林所有者（以下、石狩在村）	1,254名
石狩支庁不在村森林所有者（以下、石狩不在村）	644名
網走支庁在村森林所有者（以下、網走在村）	800名
石狩支庁管内に森林を所有する組織体	398組織
在村企業森林所有者（以下、在村企業）	194社
不在村企業森林所有者（以下、不在村企業）	189社
在村団体・学校等森林所有者（以下、在村団体）	15団体

抽出：「森林調査簿（石狩・網走支庁）」及び「札幌市森林組合員名簿」より、所有面積を観点とした層化無作為抽出

方法：郵送による多項目選択方式（一部記述を含む）

期間：平成15年12月下旬～平成16年1月中旬（一次調査：森林調査簿使用）

平成16年 6月下旬～同年7月下旬（二次調査：札幌市森林組合員名簿使用）

回収状況

主に「森林調査簿」の住所不備により、個人全体で759通、組織体全体で154通の未到達（未到達率：個人28.1%、組織体38.7%）が生じました。その内訳は、「宛所たすねあたりません」が全未到達数（913通）の64.3%を占めました。

回収は、個人全体で506（回収率18.8%、到達回収率26.1%）、組織体全体で97（回収率24.4%、到達回収率39.8%）得られました。

有効回答は、個人全体で483、組織体全体で79でした。なお無効回答のうち、「森林所有なし」との回答が、石狩在村で6件、同不在村で4件、網走で1件、在村企業で8件、不在村企業で7件ありました。

	発送数A	未到達数B	回収数C	回収率 C/A×100 (%)	到達回収率 C/(A-B) ×100 (%)	有効回答数
石狩在村①	1000	335	145	14.5	21.8	133
石狩在村②	254	2	61	24.0	24.2	60
石狩不在村①	632	300	98	15.5	29.5	91
石狩不在村②	12	0	1	8.3	8.3	1
網走	800	122	201	25.1	29.6	198
個人全体	2698	759	506	18.8	26.1	483
在村企業①	181	71	43	23.8	39.1	33
在村企業②	13	0	3	23.1	23.1	3
不在村企業①	187	83	41	21.9	39.4	34
不在村企業②	2	0	1	50.0	50.0	0
在村団体	15	0	9	60.0	60.0	9
組織体全体	398	154	97	24.4	39.8	79

注)①一次調査、②二次調査

回収内訳

個人

全体で性別は「男性」が約80%を占め、年齢は「70代以上」が約40%と最多でした。

職業は、全体では「農林漁業」と「無職」が多く各約30%を占めました。が、区分別に見ると石狩不在村では「無職」（約30%）に次いで「商業・サービス業」（約20%）が多い結果になりました。

区分	石狩在村		石狩不在村		網走在村		全体	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
性別								
男性	161	83.4	77	83.7	175	88.4	413	85.5
女性	29	15.0	15	16.3	21	10.6	65	13.5
無回答	3	1.6	0	0.0	2	1.0	5	1.0
年齢								
10代以下	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
20代	0	0.0	1	1.1	1	0.5	2	0.4
30代	3	1.6	0	0.0	3	1.5	6	1.2
40代	9	4.7	4	4.3	10	5.1	23	4.8
50代	30	15.5	14	15.2	42	21.2	86	17.8
60代	55	28.5	31	33.7	60	30.3	146	30.2
70代以上	86	44.6	39	42.4	72	36.4	197	40.8
無回答	10	5.2	3	3.3	10	5.1	23	4.8
職業								
農林漁業	75	38.9	8	8.7	78	39.4	161	33.3
製造・建設業	9	4.7	7	7.6	12	6.1	28	5.8
商業・サービス業	22	11.4	16	17.4	7	3.5	45	9.3
公務員	5	2.6	1	1.1	7	3.5	13	2.7
団体職員	2	1.0	1	1.1	11	5.6	14	2.9
自由業	9	4.7	9	9.8	9	4.5	27	5.6
主婦	4	2.1	11	12.0	6	3.0	21	4.3
無職	47	24.4	27	29.3	49	24.7	123	25.5
その他	9	4.7	8	8.7	9	4.5	26	5.4
無回答	11	5.7	4	4.3	10	5.1	25	5.2
全体	193	100.0	92	100.0	198	100.0	483	100.0

組織体

従業者数は、全体で「0~10人」が最多で約30%を占めました。

団体の会員・構成員は「50人未満」が約半数を占めました。

企業の業種に関しては、在村では「その他のサービス業」、不在村では「製造・建設業」が多く、団体の活動分野では、「学校教育」が過半数でした。

区分	在村企業		不在村企業		在村団体		全体	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
従業者数								
0~10人	8	22.2	11	32.4	3	33.3	22	27.8
10~20人	7	19.4	3	8.8	1	11.1	11	13.9
30~50人	6	16.7	4	11.8	1	11.1	11	13.9
50~100人	7	19.4	4	11.8	1	11.1	12	15.2
100~500人	7	19.4	6	17.6	0	0.0	13	16.5
500人以上	1	2.8	4	11.8	1	11.1	6	7.6
無回答	0	0.0	2	5.9	2	22.2	4	5.1
会員・構成員数								
0~10人					0	0.0	0	0.0
10~20人					2	22.2	2	22.2
30~50人					2	22.2	2	22.2
50~100人					0	0.0	0	0.0
100~500人					1	11.1	1	11.1
500人以上					0	0.0	0	0.0
無回答					4	44.4	4	44.4
業種 (複数回答)								
農林漁業	3	8.3	7	20.6			10	14.3
製造・建設業	8	22.2	10	29.4			18	25.7
小売・卸売業	1	2.8	4	11.8			5	7.1
不動産業	3	8.3	9	26.5			12	17.1
その他のサービス業	19	52.8	4	11.8			23	32.9
その他	2	5.6	5	14.7			7	10.0
活動分野 (複数回答)								
学校教育					5	55.6	5	55.6
宗教活動					2	22.2	2	22.2
財団運営					2	22.2	2	22.2
社会教育					1	11.1	1	11.1
全体	36	100.0	34	100.0	9	100.0	79	100.0

問1 森林の所在地はどちらですか（複数回答）。

石狩は札幌市（在村）、その他道内（不在村）、網走は美幌町が多い

石狩に関して、在村では札幌市、北広島市に森林を所有する個人、組織体が多く、不在村では石狩支庁管内以外の道内やその他道内、浜益村、千歳市に森林を所有する個人、組織体が多かったです。一方、網走では、当初より調査対象とした美幌町、紋別市、置戸町に森林を所有する個人が多かったです、この3市町の他、重複して網走支庁管内の他町村や、その他の道内に森林を所有している人も見られました。

石狩

問1 森林の所在地（複数回答）

	石狩在村 (N=193)		石狩不在村 (N=92)		在村企業 (N=36)		不在村企業 (N=34)		在村団体 (N=9)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
札幌市	72	37.3	8	8.7	16	44.4	4	11.8	8	88.9
北広島市	35	18.1	5	5.4	11	30.6	4	11.8	2	22.2
当別町	23	11.9	12	13.0	2	5.6	1	2.9	0	0.0
厚田村	20	10.4	16	17.4	1	2.8	5	14.7	0	0.0
千歳市	16	8.3	17	18.5	6	16.7	6	17.6	0	0.0
浜益村	12	6.2	22	23.9	1	2.8	3	8.8	0	0.0
恵庭市	11	5.7	2	2.2	1	2.8	2	5.9	0	0.0
石狩市	3	1.6	6	6.5	2	5.6	0	0.0	0	0.0
江別市	1	0.5	1	1.1	1	2.8	0	0.0	0	0.0
新篠津村	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他の北海道内	10	5.2	23	25.0	4	11.1	19	55.9	0	0.0
北海道外	1	0.5	5	5.4	1	2.8	8	23.5	0	0.0
わからない	0	0.0	1	1.1	0	0.0	1	2.9	0	0.0

網走

問1 森林の所在地（複数回答）

	網走在村 (N=198)	
	(人)	(%)
美幌町	85	43.1
紋別市	58	29.4
置戸町	42	21.3
北見市	9	4.6
女満別町	6	3.0
端野町	6	3.0
訓子府町	5	2.5
留辺蘂町	5	2.5
湧別町	5	2.5
興部町	5	2.5
上湧別町	4	2.0
網走市	3	1.5
東藻琴村	3	1.5
滝上町	3	1.5
津別町	2	1.0
佐呂間町	1	0.5
生田原町	1	0.5
遠軽町	1	0.5
丸瀬布町	1	0.5
その他の北海道内	1	0.5

問2 所有している森林の面積は全部でどれぐらいですか。

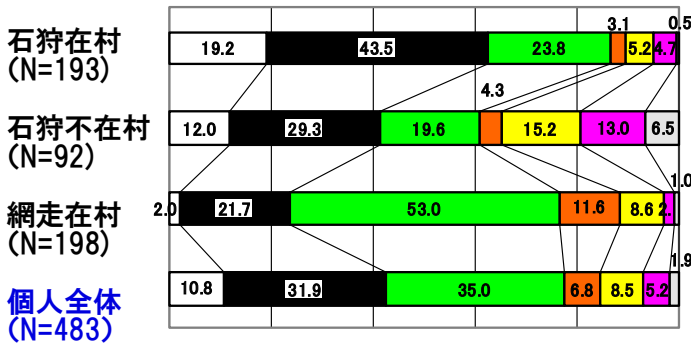
- 1 1ha未満
- 2 1～5ha未満
- 3 5～30ha未満
- 4 30～50ha未満
- 5 50ha以上
- 6 わからない

個人は「1～5ha」「5～30ha」、組織体は「50ha以上」が各3割

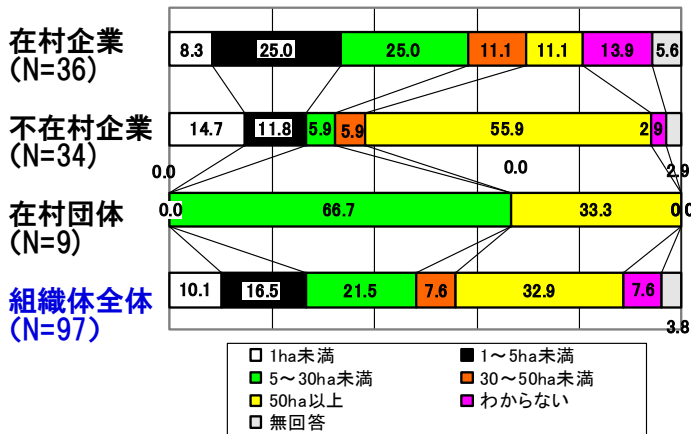
個人について、全体では「1～5ha未満」と「5～30ha未満」が各30%強と多い結果になりました。区分別に見ると石狩が網走と比べて所有面積が小さい傾向があることがわかります。

組織体について、全体では「50ha以上」が約33%と多い結果になり、区分別では、不在村企業と在村団体に所有面積の大きい傾向があることがわかります。

個人



組織体



問3 森林のうち人工林の面積は大体どのくらいですか。
 森林を複数の所にお持ちの場合は、合計した場合の人工林の比率をお答えください。

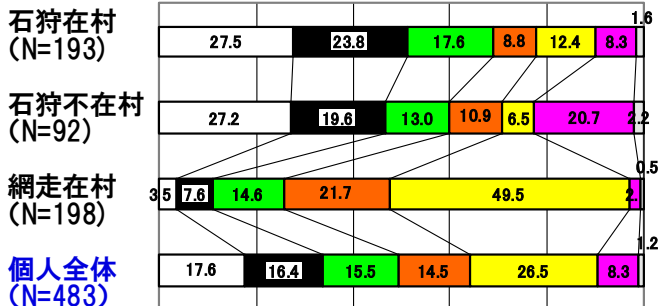
- 1 人工林は全くない(0%)
- 2 人工林が若干(0~20%未満)
- 3 人工林が半分未満(20~50%未満)
- 4 人工林が半分以上(50~80%未満)
- 5 殆ど全て(80~100%)が人工林である
- 6 わからない

個人は「人工林 8 割以上」、組織体は「人工林なし」「2 割未満」が各1/4

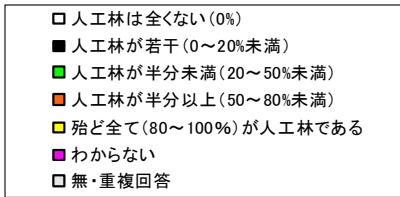
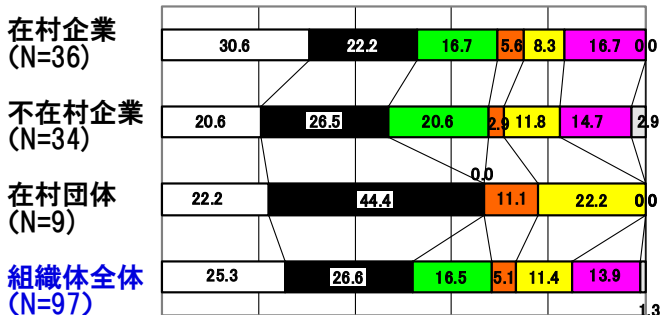
個人について、全体では、「殆ど全て(80~100%)が人工林である」が約27%と多い結果になりました。区分別にみると、石狩在村ではおよび不在村では、人工林比率が2割未満の人が約半数を占めるのに対し、網走在村では人工林比率が8割以上の人が約半数を占め、かつ人工林が多い人ほど人数が多い傾向があることがわかります。

組織体について、全体では「人工林は全くない(0%)」と「人工林が若干(0~20%未満)」が各約1/4と多い結果になりました。区分別にみると、在村企業では人工林を所有しない所有者が最多であることがわかります。

個人



組織体



問4 所有している森林の境界がわかりますか。

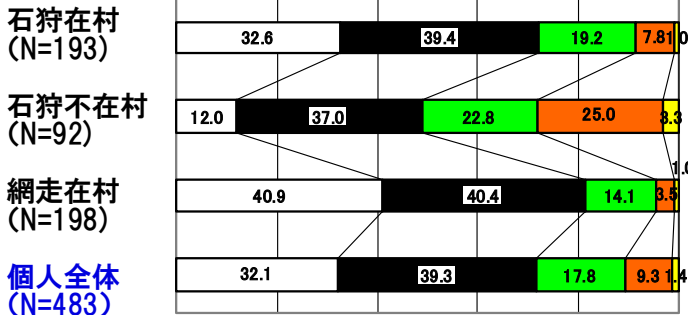
- 1 すべてわかる
- 2 大部分わかる
- 3 少しはわかる
- 4 全くわからない

個人・組織体とも「大部分・すべてわかる」が7割

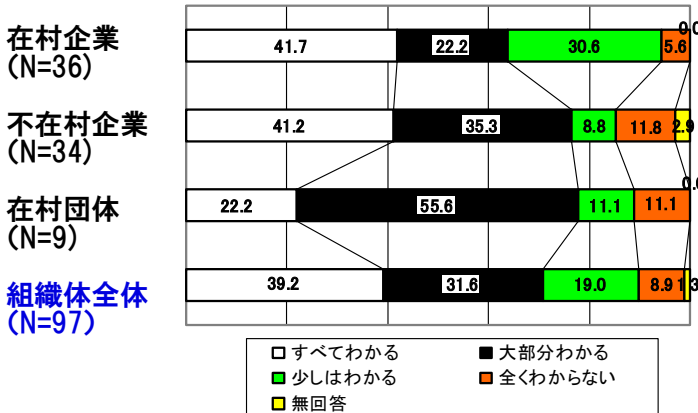
個人について、全体では「大部分わかる」が約39%、次いで「すべてわかる」が約32%と多い結果になりました。区分別にみると、網走では「すべてわかる」が「大部分わかる」と同等に約40%と多く、所有森林に対する認知度が高い人が多い傾向がわかります。

組織体について、全体では「すべてわかる」が約39%、次いで「大部分わかる」が約32%と多い結果になりました。区分別にみると、在村企業では「すべてわかる」に次いで「少しはわかる」が約31%と多く、所有森林に対する認知度が高い層とやや低い層が共存する傾向がわかります。

個人



組織体



問5 現在、森林をどのような目的で所有していますか。

個人

- 1 林業を行う場として
- 2 不動産の1つとして
- 3 子どもや孫に継がせる財産として
- 4 自然が好きなので自分の楽しみのため
- 5 自然環境や水資源の保全
- 6 相続などによってそのまま所有している
- 7 わからない
- 8 その他

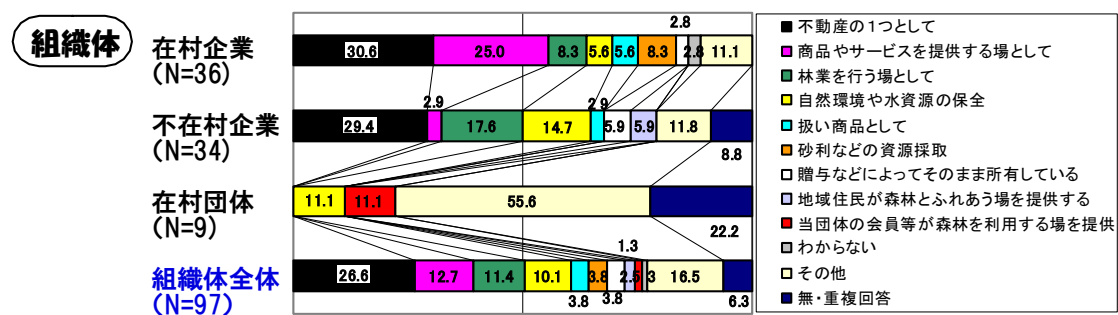
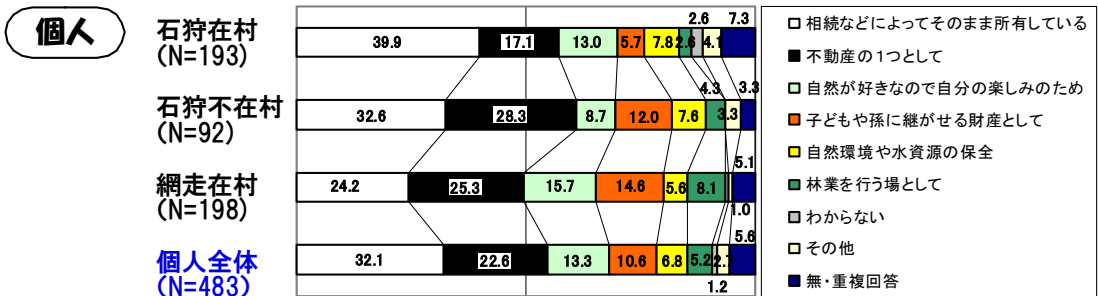
組織体

- 1 林業を行う場として
- 2 扱い商品として
- 3 商品やサービスを提供する場として
- 4 不動産の1つとして
- 5 砂利などの資源採取
- 6 自然環境や水資源の保全
- 7 地域住民が森林とふれあう場を提供
- 8 会員・構成員が森林を利用する場を提供
- 9 贈与等によってそのまま所有している
- 10 わからない
- 9 その他

個人「相続等でそのまま」、組織体「不動産として」所有が各3割

個人について、全体では、「相続などによってそのまま所有している」が約32%、次いで「不動産の1つとして」が約23%と多い結果になりました。

組織体について、全体では「不動産の1つとして」が約27%と多い結果になりました。区分別に見ると、これに次いで在村企業では「商品やサービスを提供する場として」が多く、不在村企業では「林業を行う場として」が多い、在村団体は「不動産の1つとして」が皆無で回答が分散する（その他が過半数）など、それぞれ異なった傾向がみとめられました。



注) 個人・組織体とも全体での該当比率が高い順に選択肢を並べ替えた。該当なし(0.0%)については記載を省略。

問6 最近5年間で、所有している森林では、次のような手入れを行いましたか。
ご自分で行ったもの、人に頼んだものも含めて、お答えください（複数回答）。

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 植樹 | 7 簡易な作業道、散策路などをつける |
| 2 下草刈り | 8 林内の清掃 |
| 3 除伐・つるきり・枝打ち | 9 手入れの必要は感じるが行っていない |
| 4 切り捨て間伐 | 10 手入れは必要ないので行っていない |
| 5 販売間伐 | 11 わからない |
| 6 主伐 | |

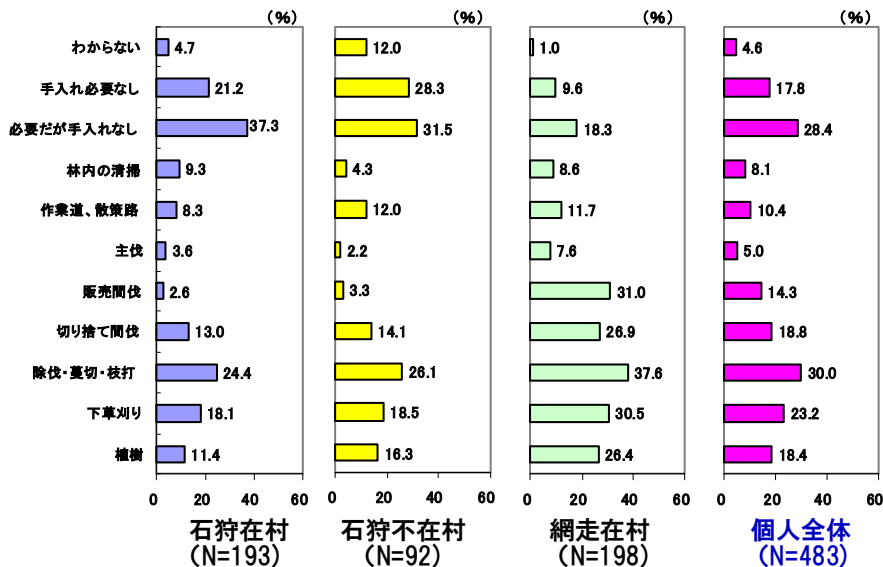
個人「除伐・つるきり等」「必要だが手入れしていない」が各約3割

個人は、全体では「除伐・つるきり・枝打ち」「手入れの必要は感じるが行っていない」が多く各約30%を占めました。上位の選択肢を区別にみると、石狩不在村では「手入れなし（選択肢9,10）」の2者が特に多く、一方、網走在村では「販売間伐」等何らかの施業をしたとの回答が多いといった傾向がわかります。

組織体は、全体では「下草刈り」が多く約43%、次いで「除伐・つるきり・枝打ち」が約34%を占めました。区別では、在村企業ではこれらに加え「手入れは必要ないので行っていない」も約31%と多いことがわかります。

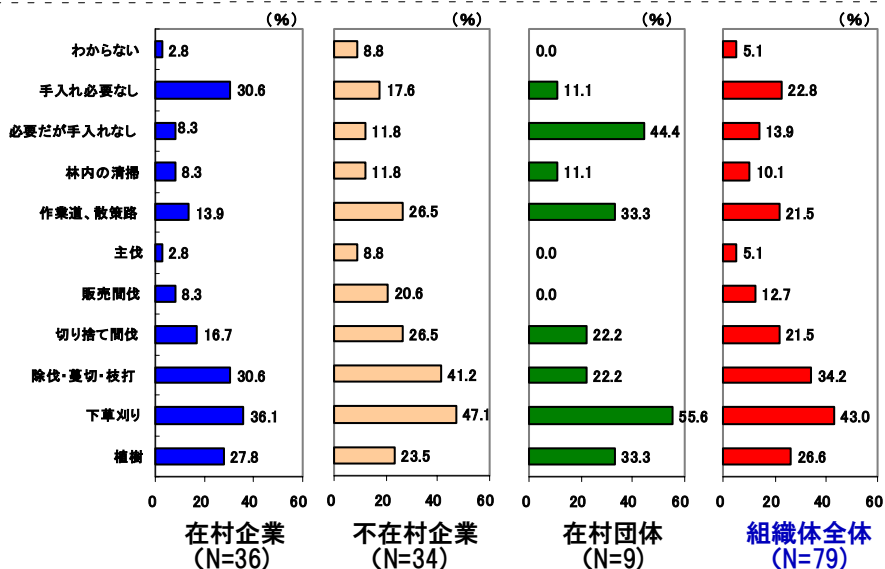
個人

(複数回答)



組織体

(複数回答)



問7 所有している森林の手入れ状態についてどのようにお考えですか。

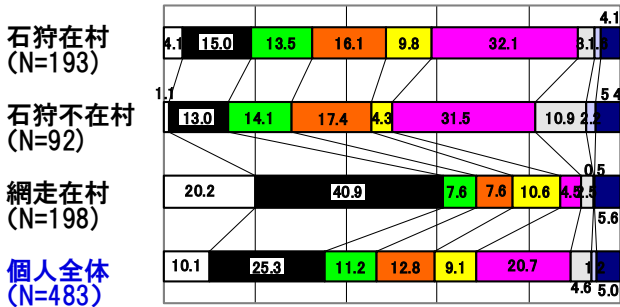
- 1 森林面積のほぼ全てで手入れが行き届いている
- 2 全てではないが、手入れが行き届いている森林の方が多い
- 3 手入れ不足や放置森林の方が多い
- 4 森林面積の全てが放置森林である
- 5 「手入れの行き届いた森林」と「手入れ不足・放置森林」が半々くらい
- 6 手入れは全くしていないが、特に問題があるとは思わない
- 7 わからない
- 8 その他

手入れ「皆無だが問題なし（石狩）」、「行き届いている方（網走）」が多い

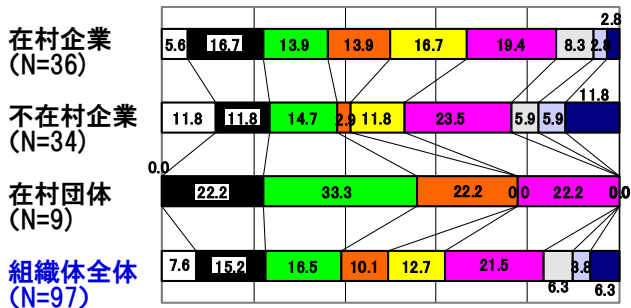
個人は、全体では「全てではないが、手入れが行き届いている森林の方が多い」が多く約25%を占めました。区分別にみると、石狩在村および不在村では、「手入れは全くしていないが、特に問題があるとは思わない」が最多である一方、網走在村では、「全てではないが、手入れが行き届いている森林の方が多い」が最多と、手入れに対する意識の違いがあらわれました。

組織体は、全体では「手入れは全くしていないが、特に問題があるとは思わない」が多く約22%を占めました。

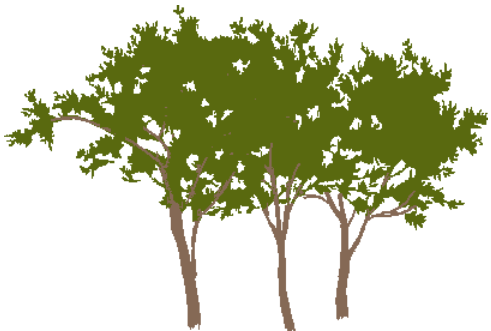
個人



組織体



- 森林面積のほぼ全てで手入れが行き届いている
- 全てではないが、手入れが行き届いている森林の方が多い
- 手入れ不足や放置森林の方が多い
- 森林面積の全てが放置森林である
- 「手入れの行き届いた森林」と「手入れ不足・放置森林」が半々くらい
- 手入れは全くしていないが、特に問題があるとは思わない
- わからない
- その他
- 無・重複回答



問8 森林の手入れや経営上での問題点があれば、当てはまるものをお答えください。
(複数回答3)

個人

- 1 採算が合わず、手入れのために人を雇う資金が不足している
- 2 自家の労働力が不足している
- 3 自家の労働者が高齢化している
- 4 後継者がいない
- 5 森林面積が小さい
- 6 林道が少なく、現地に行けない
- 7 固定資産税が高い
- 8 相続税が高い
- 9 特に問題はない
- 10 わからない
- 11 その他

組織体

- 1 採算が合わず、手入れのために人を雇う資金が不足している
- 2 作業を行える自組織内の従業者が不足している
- 3 作業を行える自組織内の従業者が高齢化している
- 4 森林面積が小さい
- 5 林道が少なく、現地に行けない
- 6 固定資産税が高い
- 7 森林をふれあいの場などとして地域に開放したいが、ノウハウが不足している
- 8 特に問題はない
- 9 わからない
- 10 その他

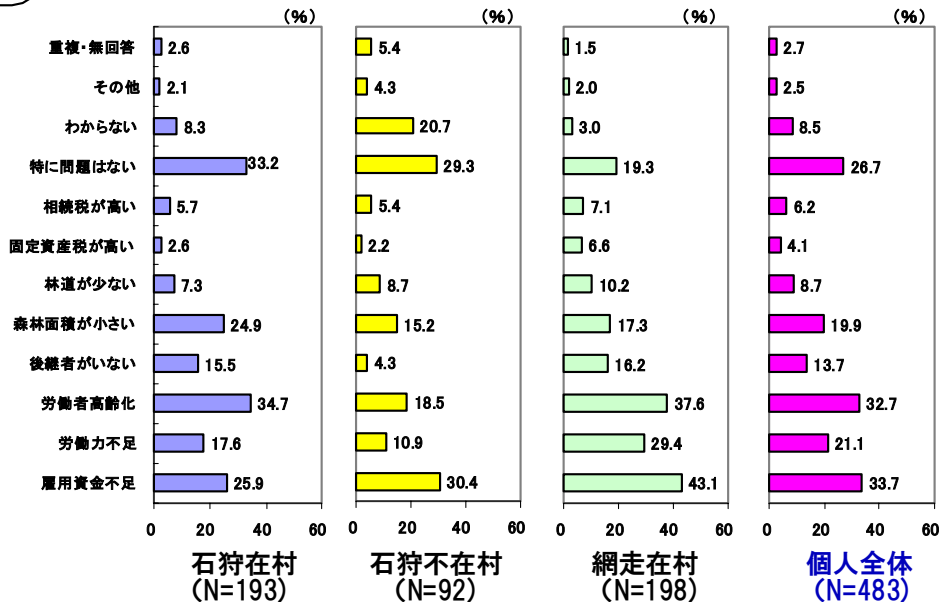
個人「雇用資金不足」「労働力高齢化」各3割、石狩は「問題なし」も多い

個人は、全体では「採算が合わず、手入れのために人を雇う資金が不足している」と「自家の労働者が高齢化している」が多く各30%強を占めました。上位を区分別にみると、石狩では「特に問題はない」とする比率も30%前後と多いことがわかります。

組織体は、全体では「特に問題はない」が多く約48%を占め、次いで「採算が合わず、手入れのために人を雇う資金が不足している」が約22%と多い結果になりました。

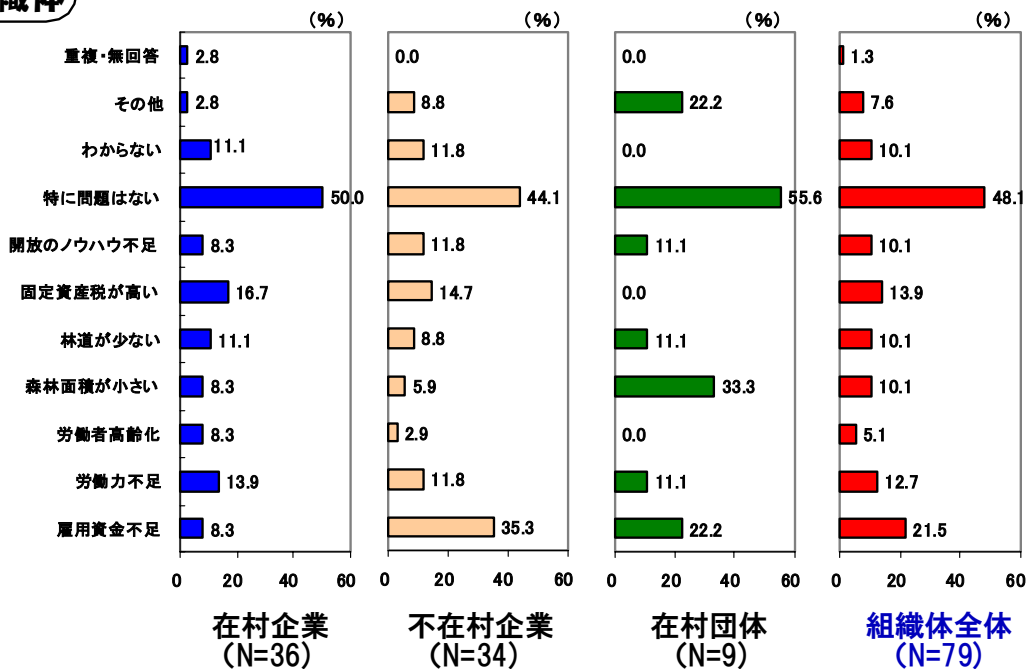
個人

(複数回答3)



組織体

(複数回答3)



問9 今後の林業経営（森林での林産物の生産・販売）の規模について、どのようにお考えですか。

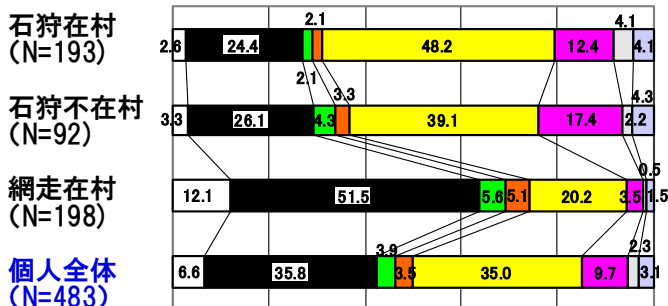
- 1 拡大したい
- 2 現状を維持したい
- 3 縮小したい
- 4 林業経営自体をやめたい
- 5 現在、林業経営はしていない
- 6 わからない
- 7 その他

林業経営「現在していない（石狩）」、「現状維持（網走）」が多い

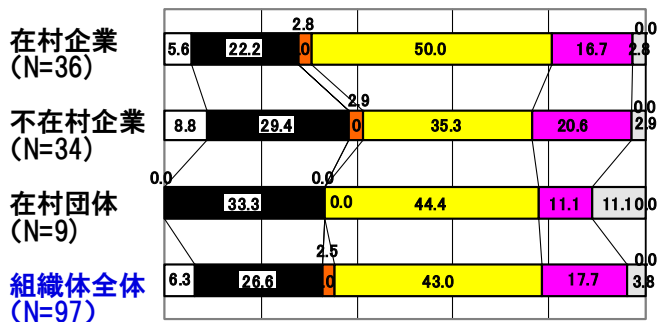
個人は、全体では「現状を維持したい」と「現在、林業経営はしていない」が多く35～36%を占めました。区別では、石狩では「現在、林業経営はしていない」が最多である一方、網走では「現状を維持したい」が最多であり、「拡大したい」という回答も約1割見られました。このように林業経営の現況や今後の意向は地域によって異なる傾向が見られます。

組織体は、全体では「現在、林業経営はしていない」が多く約43%を占めました。

個人



組織体



- 拡大したい
- 現状を維持したい
- 縮小したい
- 林業経営自体をやめたい
- 現在、林業経営はしていない
- わからない
- その他
- 無・重複回答

問10 「地域森林管理*」という考え方をふまえて、本州の自治体の中には、住民全世帯の負担や企業、団体等の寄付によって森林を守るための基金をつくり、これを財源にして、水源地域の私有林の手入れを行っているところもあります。このような方法についてどう思いますか。

- 1 地域全体で森林を支えるという内容なので、よい方法である
- 2 内容はともかく、その地域が森林について考えて納得して決めたという点で、よい方法である
- 3 基金をつくってまで森林を守る必要はない
- 4 森林はあくまで所有者の努力や判断によって守るべき
- 5 わからない
- 6 その他

「よい方法」6割、組織体は「わからない」も2割

個人は、全体では「地域全体で森林を支えるという内容なので、よい方法である」と「内容はともかく、その地域が森林について考えて納得して決めたという点で、よい方法である」が多く各30%前後を占めました。

組織体は、全体では「地域全体で森林を支えるという内容なので、よい方法である」が多く約41%でした。ついで「内容はともかく、その地域が森林について考えて納得して決めたという点で、よい方法である」と「わからない」とが各20%弱を占めました。区分別にみると、不在村企業で前者（方法としてよい）が、在村企業と在村団体で後者（わからない）が多く、より上位にあることがわかります。

「よい方法（選択肢1,2）」とする回答は、個人、組織体とも全体で60%弱を占めました。

個人

石狩在村 (N=193)

石狩不在村 (N=92)

網走在村 (N=198)

個人全体 (N=483)

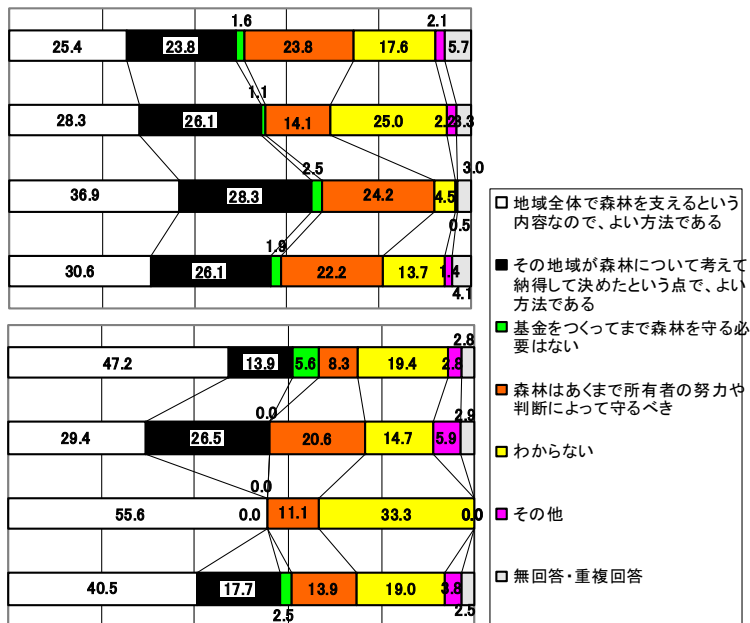
組織体

在村企業 (N=36)

不在村企業 (N=34)

在村団体 (N=9)

組織体全体 (N=97)



*「地域みんなで森林を支えよう」：地域森林管理

森林は、飲み水などの水源をかん養したり、美しい景色をつくったり、地球温暖化を防止したりといった、さまざまな働きを持っており、多くの人がその恵みを受けています。このため、近年、森林を、所有者のものとするだけでなく、「社会の共有財産」としてとらえ、地域みんなで森林を守ったり、整備したりする「地域森林管理」という考え方が出てきています。

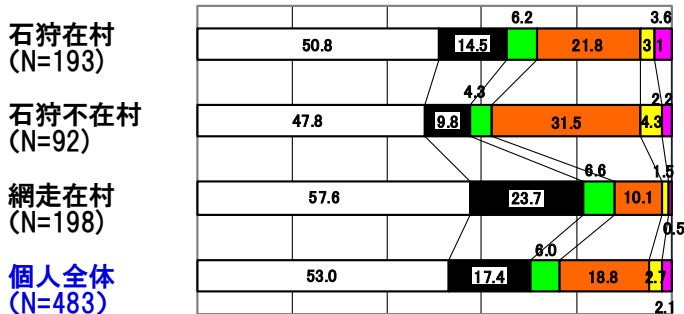
問11 北海道の自治体でも、森林を所有者から借り、地域の森林として確保した上で、散策路などをつくって住民が利用できるようにしているところもあります。このような方法（内容）についてどう思いますか。

- 1 森林を利用しながら残していくためによい方法である
- 2 借りるよりも、他の方法で、森林を残すことを考えるべき
- 3 借りてまで森林を残す必要はない
- 4 わからない
- 5 その他

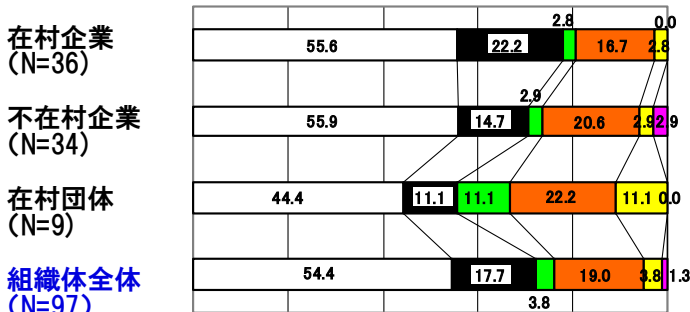
個人・組織体の約半数が「よい方法」

個人・企業とも、全体では「森林を利用しながら残していくためによい方法である」が多く50%強を占めました。また次いで、「わからない」と「借りるよりも、他の方法で、森林を残すことを考えるべき」が各20%弱と多い結果になりました。区分別にみると、石狩在村、石狩不在村、不在村企業、在村団体で前者（わからない）がより上位に、在村企業と網走在村で後者（他の方法で残す）が多く、より上位にあることがわかります。

個人



組織体



- 森林を利用しながら残していくためによい方法である
- 借りるよりも、他の方法で、森林を残すことを考えるべき
- 借りてまで森林を残す必要はない
- わからない
- その他
- 無・重複回答

問12 自治体などから所有している森林を借りたいという依頼があった場合に、どのように対応しますか。

- 1 無条件で、森林を貸し出す
- 2 貸し出しの期間や賃貸料、行われる整備内容など条件に応じて、当方に利益があれば貸し出す
- 3 直接当方に利益はないにしても、地域に利益があれば貸し出す
- 4 貸し出しは考えていない
- 5 面積や立地など、当方の森林の状況では、貸し出しはあまり考えられない
- 6 わからない
- 7 その他

「当方に利益があれば貸し出し可」が3割

個人は、全体では「貸し出しの期間や賃貸料、行われる整備内容など条件に応じて、当方に利益があれば貸し出す」が多く約31%を占めました。区分別に見ると、石狩在村では「面積や立地など、自分の森林の状況では、貸し出しはあまり考えられない」が最多で、これ（当方に利益があれば貸し出し可）をのしていることがわかります。

組織体でも、全体では「貸し出しの期間や賃貸料、行われる整備内容など条件に応じて、当方に利益があれば貸し出す」が多く約28%を占めました。

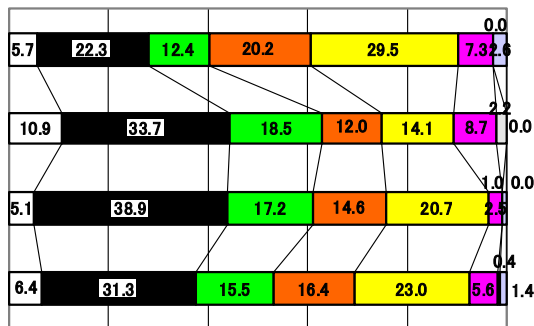
個人

石狩在村 (N=193)

石狩不在村 (N=92)

網走在村 (N=198)

個人全体 (N=483)



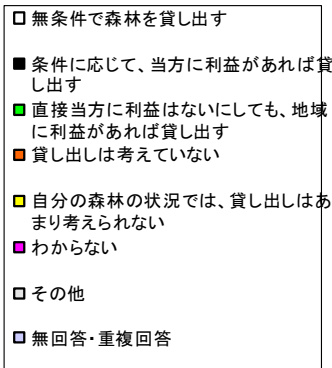
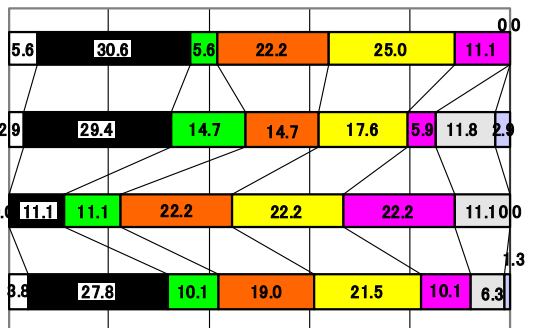
組織体

在村企業 (N=36)

不在村企業 (N=34)

在村団体 (N=9)

組織体全体 (N=97)



問13 地域森林管理の出発点として、最近、自治体内の森林をどのように守ったり、整備・活用していくかについて、地域の人々が参加して、計画をつくったり、意見を述べたりする取り組みが始められています。

そうした場では、住民やその地域に森林を所有している個人・企業・団体、森林ボランティア、森林・林業の専門家、都市計画や観光・商工関係者など、さまざまな立場の人の参加が望まれています。

あなたは、こうした取り組みについてどのように思いますか。

- 1 そうした取り組みに参画し、森林所有者としての考えを述べたい
- 2 そうした場へは直接参加できないが、文章やアンケートなどで考えを伝えたい
- 3 取り組みの経過について、情報だけ欲しい
- 4 取り組みの主旨は理解できるが、自分としては特に関わりを持ちたくない
- 5 そのような取り組みは、正直なところ賛成できない
- 6 特に関心はない（賛成でも反対でもない）
- 7 わからない
- 8 その他

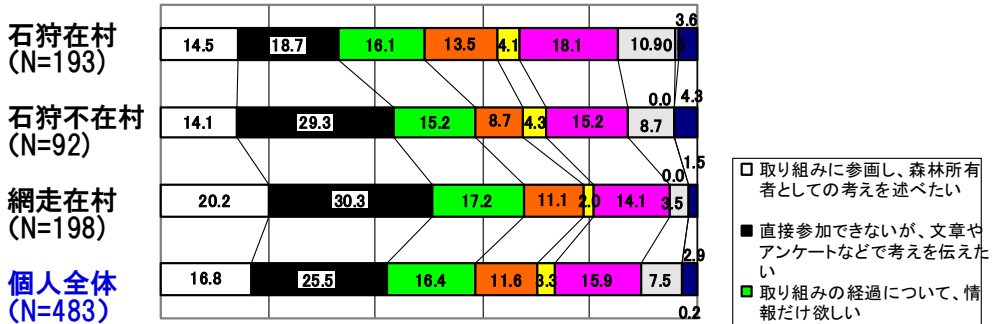
市民協議へは個人 4 割、組織体 3 割が参加意志あり

個人は、全体では「そうした場へは直接参加できないが、文章やアンケートなどで考えを伝えたい」が多く約26%を占めました。

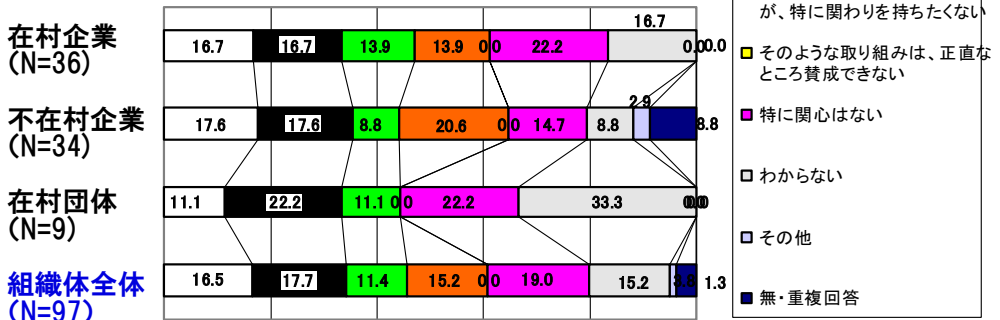
組織体では、全体では「特に関心はない」、「そうした場へは直接参加できないが、文章やアンケートなどで考えを伝えたい」、「そうした取り組みに参画し、森林所有者としての考えを述べたい」の3者が多く各20%弱を占めました。

上記の市民協議に対して、直接的な参加意思（選択肢1）と間接的な参加意思（選択肢2）を示す回答を合計すると、個人では全体の約42%、組織体では全体の約34%が何らかの参加意志を持っていることがわかります。

個人



組織体



- 取り組みに参画し、森林所有者としての考えを述べたい
- 直接参加できないが、文章やアンケートなどで考えを伝えたい
- 取り組みの経過について、情報だけ欲しい
- 取り組みの主旨は理解できるが、特に関わりを持ちたくない
- そのような取り組みは、正直なところ賛成できない
- 特に関心はない
- わからない
- その他
- 無・重複回答

問14 森林ボランティアを知っていましたか。

- 1 すでに活動に協力したり、一緒に参加したことがある
- 2 聞いたことはある
- 3 今回初めて知った

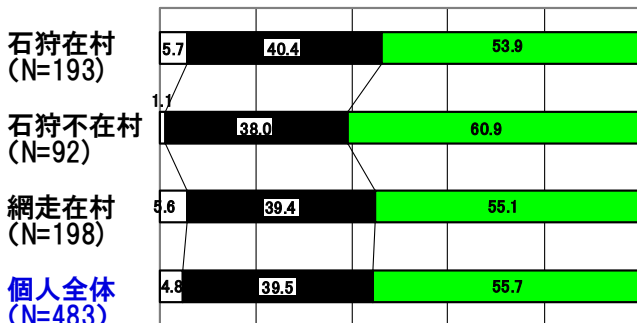
個人6割、組織体5割が、森林ボランティア「今回初めて知った」

個人は、全体では「今回初めて知った」が多く約56%を占めました。

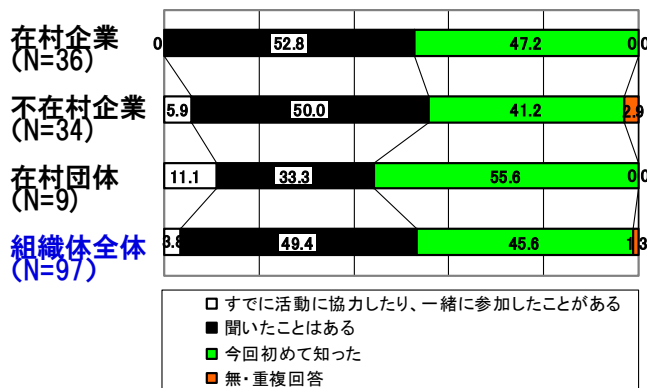
組織体でも、全体では「今回初めて知った」が多く約46%を占めました。

このように森林ボランティアへの認知が高いとはいえない中であっても、「すでに活動に協力したり、一緒に参加したことがある」とする回答も、個人全体で約5%、企業全体で約4%みられました。

個人



組織体



森林ボランティアってなに？

森林ボランティアは、無償で森林の手入れを行う市民グループです。メンバーは一般の市民であり、手入れの技術に関しては、基本的にアマチュアですが、林業技術者の指導等を受けながら技術を高めて、木のない土地に植樹をしたり、手入れ不足森林の間伐・枝打ちをするなど、地域の森林整備に役割を果たしている団体もあります。

現在、このような森林ボランティアは急増しており、全国で約1,200団体、北海道にも約120団体ある（※）とされています。



問15 森林ボランティアの活動について、一般的にどう思いますか、

- 1 期待している
- 2 やや期待している
- 3 あまり期待しない
- 4 全く期待しない
- 5 正直なところ賛成できない
- 6 どちらともいえない
- 7 特に関心がない
- 8 わからない

森林ボランティアに対し、約4割が「期待あり」

個人は、全体では「やや期待している」が多く約24%を占めました。

組織体では、全体では「期待している」と「どちらともいえない」が多く各約20%を占めました。区分別に見ると、在村企業では「どちらともいえない」が最多、不在村企業では「期待している」が最多、在村団体は「わからない」が最多と、それぞれ評価の傾向が異なることがわかります。

「やや期待している」と「期待している」を加えた、森林ボランティアに何らかの「期待あり」とする回答は、全体で個人では約45%、組織体では約37%という結果になりました。

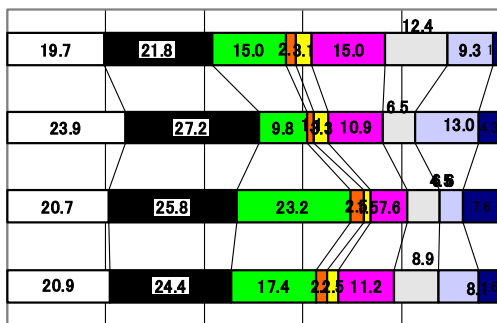
個人

石狩在村
(N=193)

石狩不在村
(N=92)

網走在村
(N=198)

個人全体
(N=483)



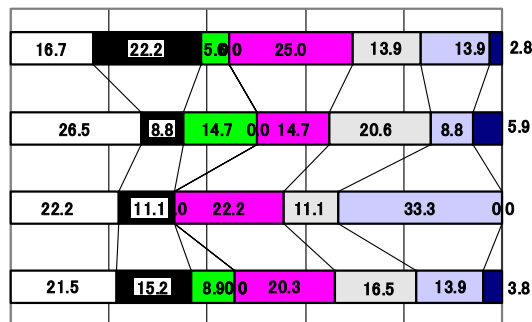
組織体

在村企業
(N=36)

不在村企業
(N=34)

在村団体
(N=9)

組織体全体
(N=97)



- 期待している
- やや期待している
- あまり期待しない
- 全く期待しない
- 正直なところ賛成できない
- どちらともいえない
- 特に関心がない
- わからない
- 無回答・重複回答

問16 森林ボランティアにどのような面で特に期待しますか。

(前問で「期待している」、「やや期待している」とした人のみ回答)

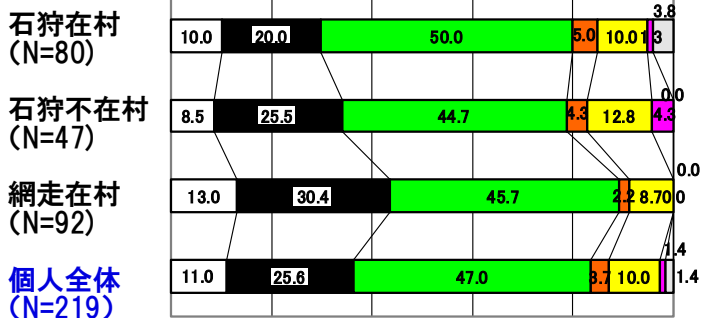
- 1 労働力の一助として
- 2 森林・林業の理解者として
- 3 森林・林業の大切さを社会に伝える情報発信者として
- 4 都市部の住民との交流の一環として
- 5 森林を活用した新たなビジネス（地域振興）の一環として
- 6 その他

森林・林業に関する普及啓発分野で、森林ボランティアに期待

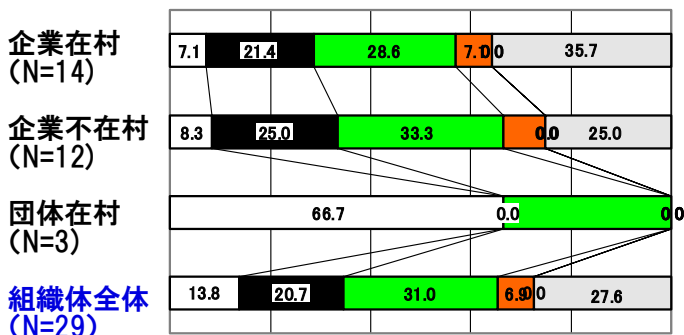
個人・組織体とも、全体では「森林・林業の大切さを社会に伝える情報発信者として」が多く、個人で47%、組織体で約31%を占めました。次いで多いのは、同様に個人・組織体とも、「森林・林業の理解者として」という結果になりました。

一方、「労働力の一助として」とする回答は、個人・組織体とも全体で1割程度と比較的少なく、森林ボランティアに対しては、労働力としての期待よりもむしろ上記のような森林・林業に関する普及啓発の主体（担い手）や客体（受け手）としての期待が大きいことがわかりました。

個人



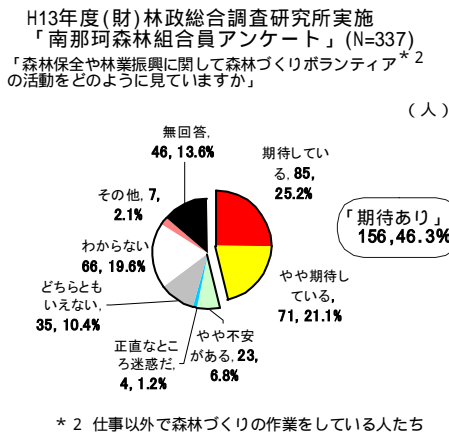
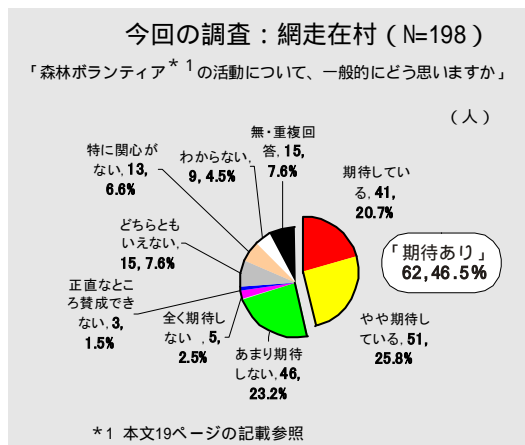
組織体



- 労働力の一助として
- 森林・林業の理解者として
- 森林・林業の大切さを社会に伝える情報発信者として
- 都市部の住民との交流の一環として
- ビジネス（地域振興）の一環として
- その他
- 無回答・重複回答

他調査との比較

森林ボランティアへの評価について：林業地データとの比較



選択肢が若干異なりますが、今回の調査では「期待あり」とする回答は、南那珂地域の結果とほぼ同等の比率が得られました。

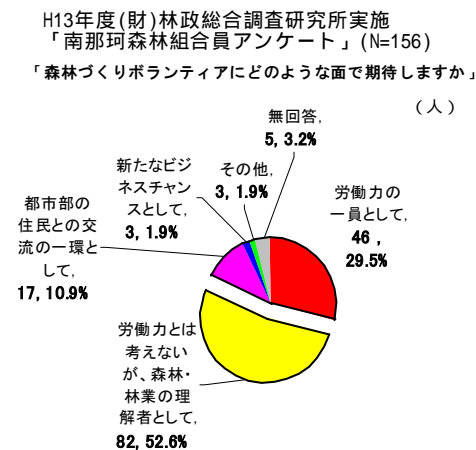
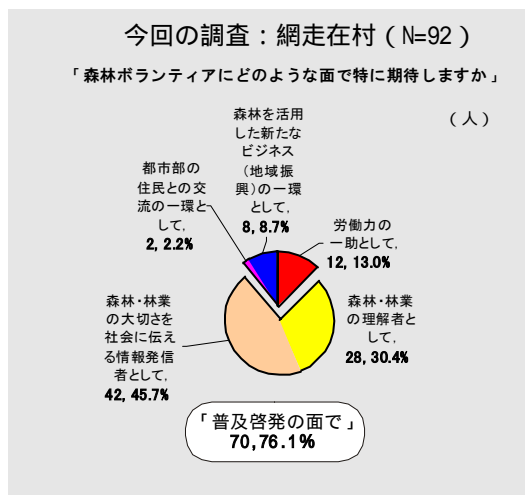
また他の選択肢を大まかに比較すると、今回の調査では「あまり・全く期待しない」、「賛成できない」を合計したボランティアに対する否定的な評価は3割弱となり、南那珂地域の回答比率(否定的評価が1割弱)を上回っていることもわかります。

宮崎県南那珂地域：
森林面積6.5万ha、森林率78%、
弁甲材で有名な鉄肥林業地を形成。

林業地であること、アンケート回答者の約96%が同地域内居住者であることから今回の調査の「網走在村」のデータと比較

森林ボランティアへの期待内容：林業地データとの比較

(①で「期待している」、「やや期待している」とした人のみ回答)



選択肢が若干異なりますが、今回の調査では「森林・林業の理解者として」が約30%、「森林・林業の大切さを社会に伝える情報発信者として」が約46%を占め、この2者を普及啓発の面での期待として合計すると8割弱に達し、南那珂地域の結果(普及啓発面が約半数)を大きく上回る回答が得られたことがわかります。

また他の選択肢をみると、今回の調査では南那珂地域の回答比率と比べ「都市部との交流」としての期待が約1/5、「労働力」としての期待が約1/2と少なくなっています。

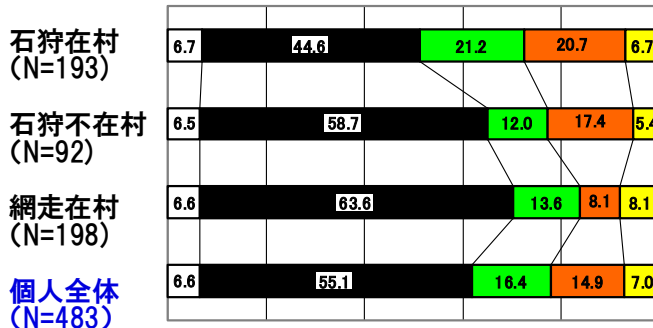
問17 森林ボランティアが所有している森林を利用したいと希望した場合、どうしますか。すでに活動に協力している場合も、ご経験をふまえてご回答ください。

- 1 無条件で提供する
- 2 条件に応じて、納得がいけば提供する
- 3 提供しない
- 4 わからない

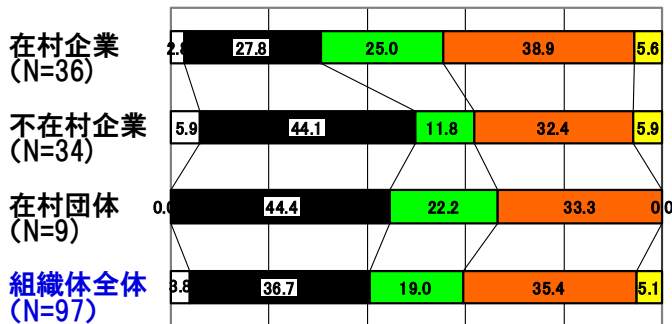
「条件に応じて提供可」個人5割、組織体は「わからない」も同値4割

個人・組織体とも、全体では「条件に応じて、納得がいけば提供する」が多く、個人で約55%、組織体で約37%を占めました。また、組織体ではほぼ同値で「わからない」も多い結果となり、区分別にみると、在村企業では「わからない」が最多であることがわかります。

個人



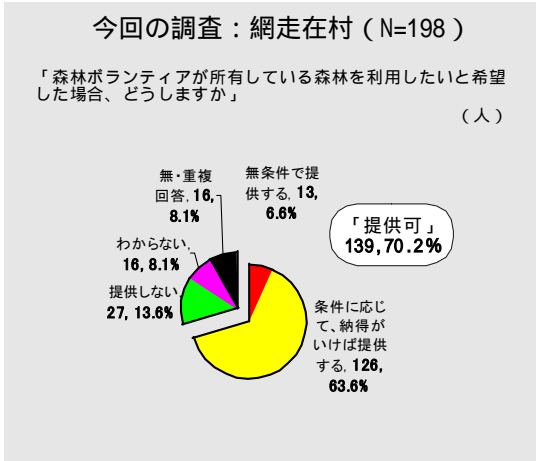
組織体



- 無条件で提供する
- 条件に応じて、納得がいけば提供する
- 提供しない
- わからない
- 無回答・重複回答

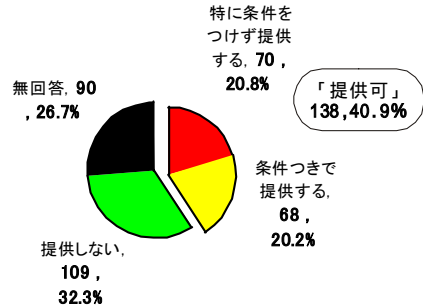
他調査との比較

-1 森林ボランティアへの所有森林提供について：林業地データとの比較



H13年度(財)林政総合調査研究所実施
「南那珂森林組合員アンケート」(N=337)

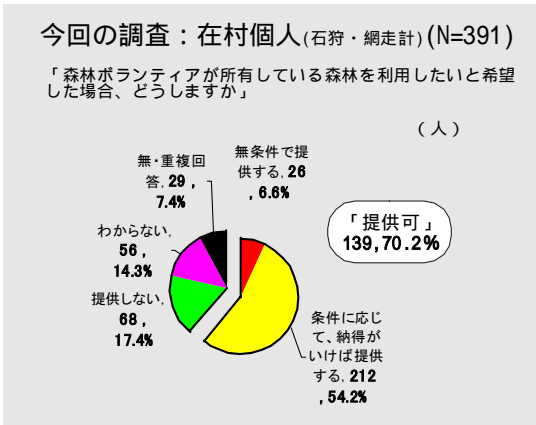
「森林づくりボランティアが活動の場としてあなたの森林を利用したいと希望してきた場合どうしますか」 (人)



選択肢が若干異なりますが、今回の調査では「無条件で提供可」とする回答は南那珂地域の約1/3と少なかったものの、これに「条件つきで提供可」を加えた「提供可」の比率は7割に達し、南那珂地域の結果（提供可が4割）を大きく上回りました。

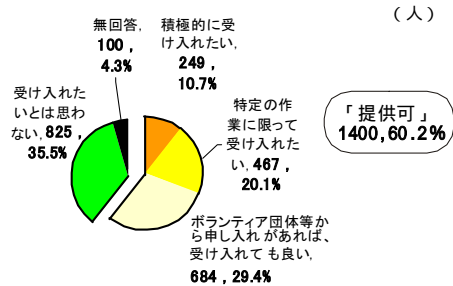
また他の選択肢をみると、今回の調査では「提供しない」の回答比率は、南那珂地域の約1/2と少ないことがわかります。南那珂地域の結果は無回答が全体の1/4以上を占めており、当アンケートの選択肢のいずれかを選ぶことに困難を感じた回答者が多かったことが推測されます。

-2 森林ボランティアへの所有森林提供について：全国データとの比較



H14年度農林水産省実施
「林業生産活動等に関する意向調査」(N=2,325)

「近年、森林ボランティア活動が盛んになってきていますが、保有する山林の森林整備(林業作業等)において、今後、森林ボランティア活動を受けたいと思いますか」 (人)



選択肢が異なり比較しづらいですが、今回の調査では「提供可」の比率は7割に達し、全国での結果（提供可が6割）をやや上回りました。

また他の選択肢をみると、今回の調査では「提供しない」の回答比率は、全国での結果の約1/2と少ないことがわかります。

「林業生産活動等に関する意向調査」
対象：
所有面積20ha以上の林家。
(所有森林の主な所在地が居住都道府県外の林家を除く)

今回の調査の「石狩在村」「網走在村」を合計したデータと比較
但し両調査の所有面積規模の相違には留意が必要

問18 提供しない理由はなんですか。(前問で「提供しない」とした人のみ回答)

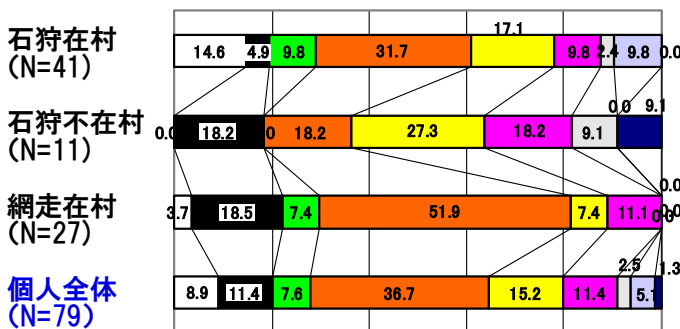
- 1 ボランティアに期待はあるが、自分の森林は、林齢やアクセス（林道の整備状況や交通）などの点で適当ではない
- 2 ボランティアに期待はあるが、自分の森林の提供は不安が大きい
- 3 ボランティアにはそもそもあまり信頼がおけない
- 4 現状で森林の手入れは、十分間に合っている
- 5 森林の手入れ自体に関心がない
- 6 森林以外への転用を考えている
- 7 わからない
- 8 その他

「手入れが間に合っているので提供しない」個人4割、組織体3割

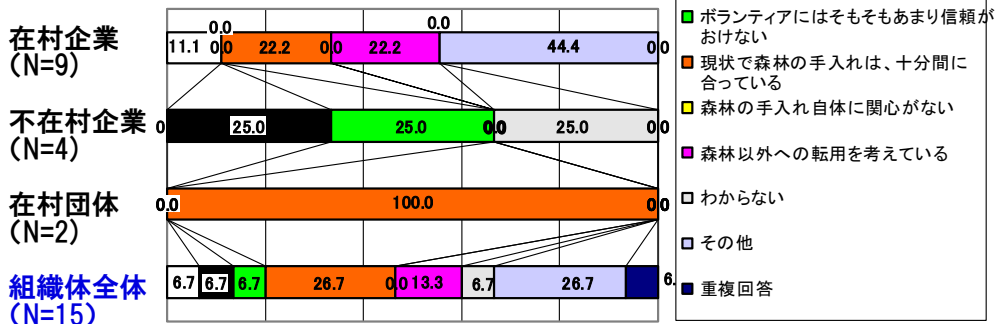
個人は、全体では「現状で森林の手入れは、十分間に合っている」が多く約37%、次いで「森林の手入れ自体に関心がない」が多く約15%を占めました。上位を区分別に見ると、石狩不在村では「森林の手入れ自体に関心がない」が最多となっていること、網走在村では「ボランティアに期待はあるが、自分の森林の提供は不安が大きい」が約19%と多く2位に入っていることがわかります。

組織体では、全体では「現状で森林の手入れは、十分間に合っている」と「わからない」が多く各約27%を占めました。

個人



組織体



- 期待はあるが、当方の森林は適当ではない
- 期待はあるが、当方の森林の提供は不安が大きい
- ボランティアにはそもそもあまり信頼がおけない
- 現状で森林の手入れは、十分間に合っている
- 森林の手入れ自体に関心がない
- 森林以外への転用を考えている
- わからない
- その他
- 重複回答

問19 森林ボランティアに対して、どのようなことに不安や問題を感じますか。

(問17で「わからない」、問18で「ボランティアに期待はあるが、自分の森林の提供は不安が大きい」、「ボランティアにはそもそもあまり信頼がおけない」とした人のみ回答：複数回答3)

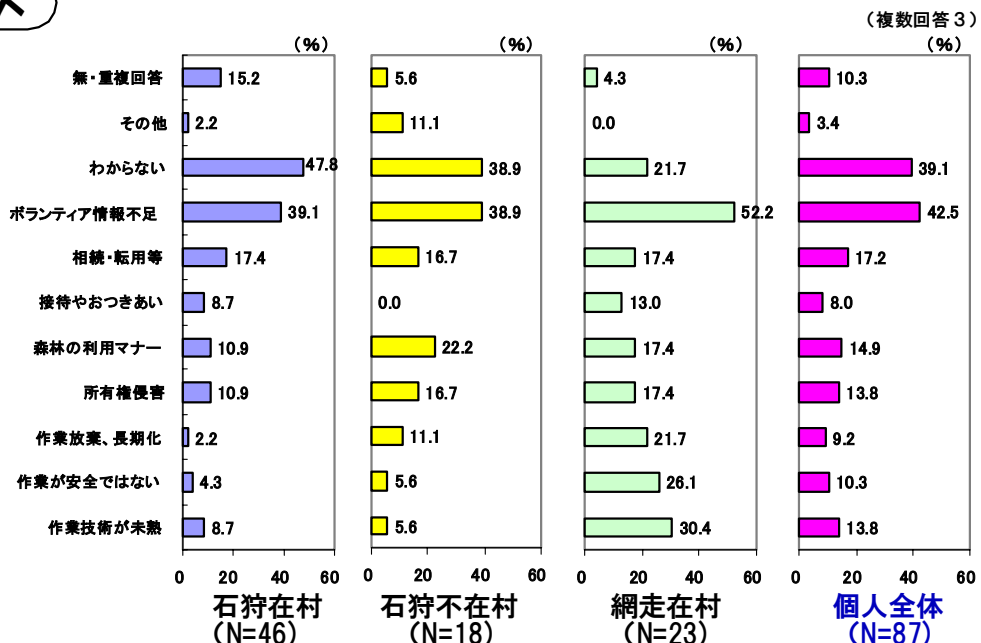
- 1 作業技術が未熟で、作業を頼んでも森林が逆に荒れてしまうのではないかと
- 2 作業が、安全に行われていないのではないかと
- 3 頼んだ作業を途中で放棄したり、作業が長期にわたってしまうのではないかと
- 4 森林を利用させているうちに、所有権まで侵害されるのではないかと
- 5 ゴミや火の始末など、森林を利用するマナーが守られないのではないかと
- 6 受け入れる上での接待やおつきあいなどに気を使わなければいけないのではないかと
- 7 相続、転用、不動産の整理等が起きた場合など、受け入れを続けることができるか約束できない
- 8 情報が不足していて、ボランティアについて、そもそもよくわからない
- 9 わからない
- 10 その他

「情報不足に不安」4割、組織体は「転用等の際に問題」も4割

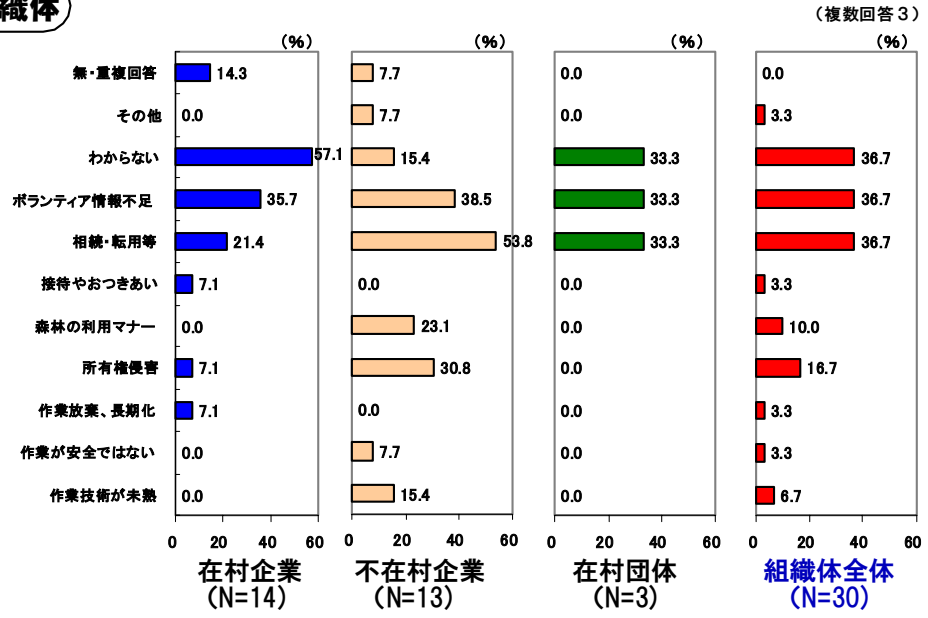
個人は、全体では「情報が不足していて、ボランティアについて、そもそもよくわからない」、次いで「わからない」が多く各40%前後を占めました。上位を区別に見ると、石狩在村では「わからない」が最多であること、網走在村では「作業技術が未熟で、作業を頼んでも森林が逆に荒れてしまうのではないかと」と不安を感じる人が約30%と多く2位に入っていることがわかります。

組織体では、全体では「相続、転用、不動産の整理等が起きた場合など、受け入れを続けることができるか約束できない」、「情報が不足していて、ボランティアについて、そもそもよくわからない」、「わからない」の3者が多く、各約37%を占めました。区別に見ると、在村企業で「わからない」が単独最多、不在村企業で「相続、転用、不動産の整理等が起きた場合など、受け入れを続けることができるか約束できない」といった違いがあることがわかります。

個人

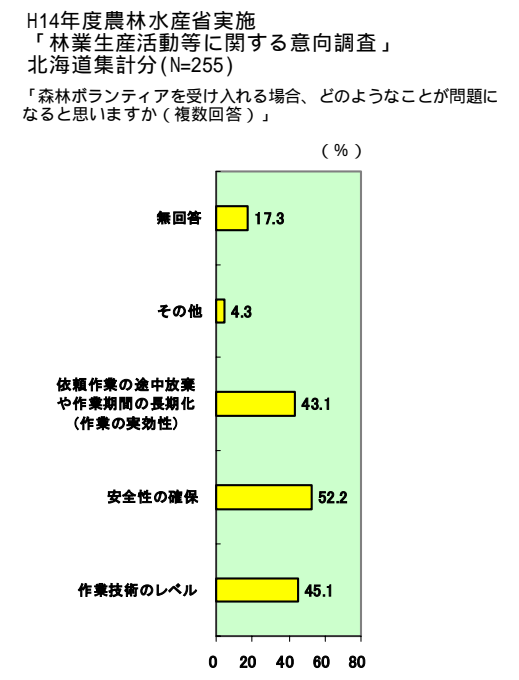
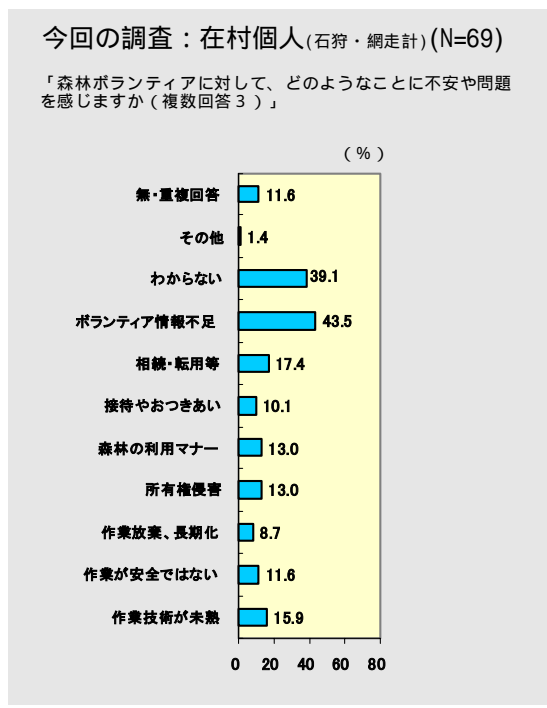


組織体



他調査との比較

森林ボランティアへの森林提供にあたっての不安：道内データとの比較



農林水産省の調査結果では、ボランティアの作業能力に対する不安が多数を占めています。回答形式と選択肢が異なり比較しづらいですが、今回の調査では、そうした作業能力よりもボランティアの存在そのものに対する情報の不足の方が主要な不安である、と多数の人が認識していたことがわかりました。

問20

仮に、森林ボランティアを受け入れられるとした場合、どのような条件が必要だと思いますか。(問17で「条件に応じて、納得がいけば提供する」、問18で「ボランティアに期待はあるが、自分の森林は適当ではない」とした人のみ回答：複数回答)

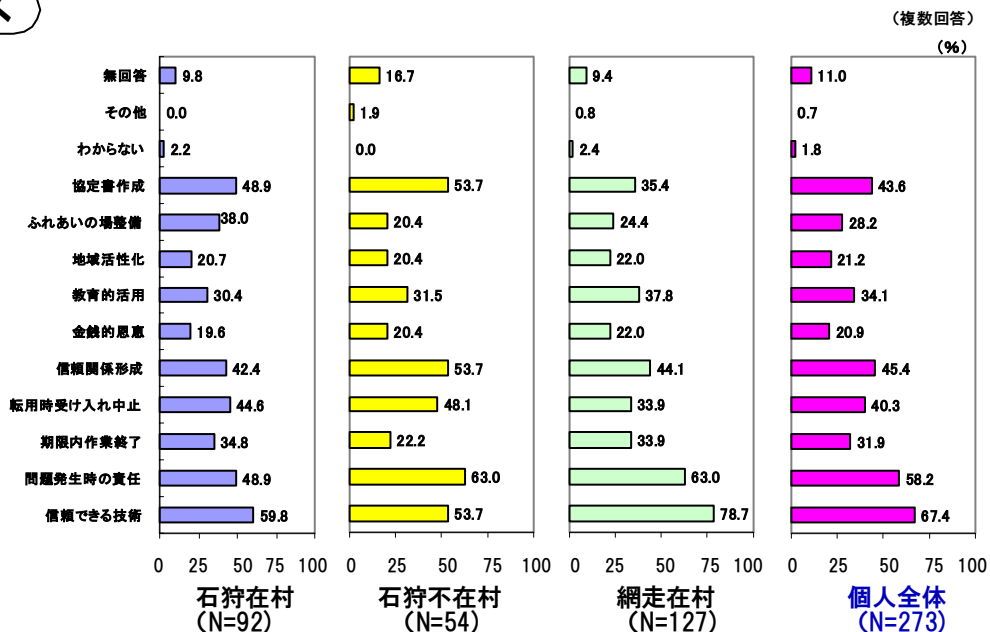
- 1 技術者による指導・監督などがあることで、信頼できる技術で作業が行われること
- 2 火事や怪我等の問題が起きた場合に、先方が責任をもてること
- 3 あらかじめ作業目標などが決められており、期限内に終了すること
- 4 転用などの必要が生じた場合は、ボランティアの受け入れを中止できること
- 5 信頼できる相手かどうか互いに確認でき、信頼関係が十分につくられること
- 6 林地の賃貸料など、自分に金銭的な恩恵があること
- 7 森林・林業について学ぶ場として、効果的に活用されること
- 8 交流の拠点として、人やお金が集まることで地域が活性化すること
- 9 地域の子どもたちが遊びながら森林にふれあえるような整備が行われること
- 10 必要な条件を記載した正式な「協定書(書面)」がつくられること
- 11 わからない
- 12 その他

個人は「信頼できる技術」、組織体は「被災時の責任」「信頼形成」が各7割

個人は、全体では「技術者による指導・監督などがあることで、信頼できる技術で作業が行われること」が多く約67%、次いで「火事や怪我等の問題が起きた場合に、先方が責任をもてること」が多く約58%を占めました。上位を区分別に見ると、石狩在村・不在村では「必要な条件を記載した正式な「協定書(書面)」がつくられること」も50%前後とこれらに次いで多いことがわかります。

組織体では、全体では「火事や怪我等の問題が起きた場合に、先方が責任をもてること」、「信頼できる相手かどうか互いに確認でき、信頼関係が十分につくられること」が多く、各70%を超えました。

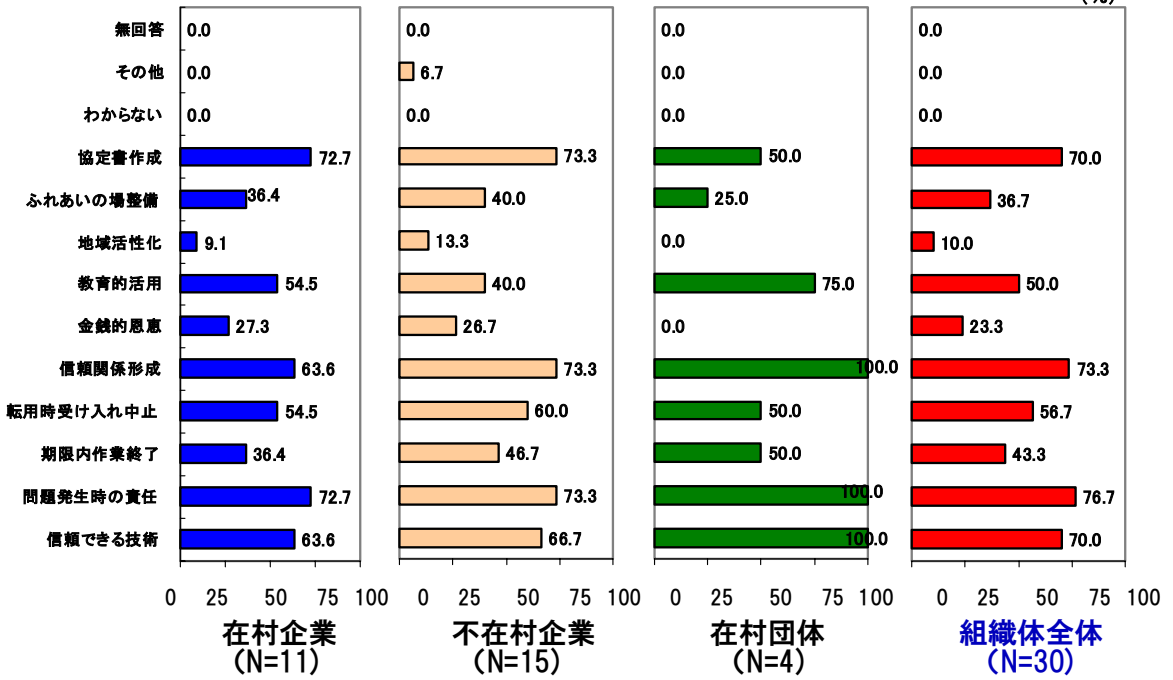
個人



(複数回答)

(%)

組織体



問21 所有森林では、森林ボランティアにどのような作業を依頼したいと思いますか。
 問18で「ボランティアに期待はあるが、自分の森林は提供するのに適当ではない」
 を選んだ方は、一般的にボランティアが取り組む作業としてよいと思うものをお答え
 ください。

(上記の他、問17で「無条件で提供する」、「条件に応じて、納得がいけば提供する」とした人のみ回答：複数回答)

- | | | |
|--------------------|------------------|-----------|
| 1 植林 | 2 下草刈り | 3 除伐・つるきり |
| 4 枝打ち | 5 間伐 | 6 地ごしらえ |
| 7 林内の清掃や見回り | 8 作業のための歩道や散策路整備 | |
| 9 長期協定による森林整備全般の作業 | 10 わからない | 11 その他 |

「除伐・つるきり」等、作業種を限って手入れを希望

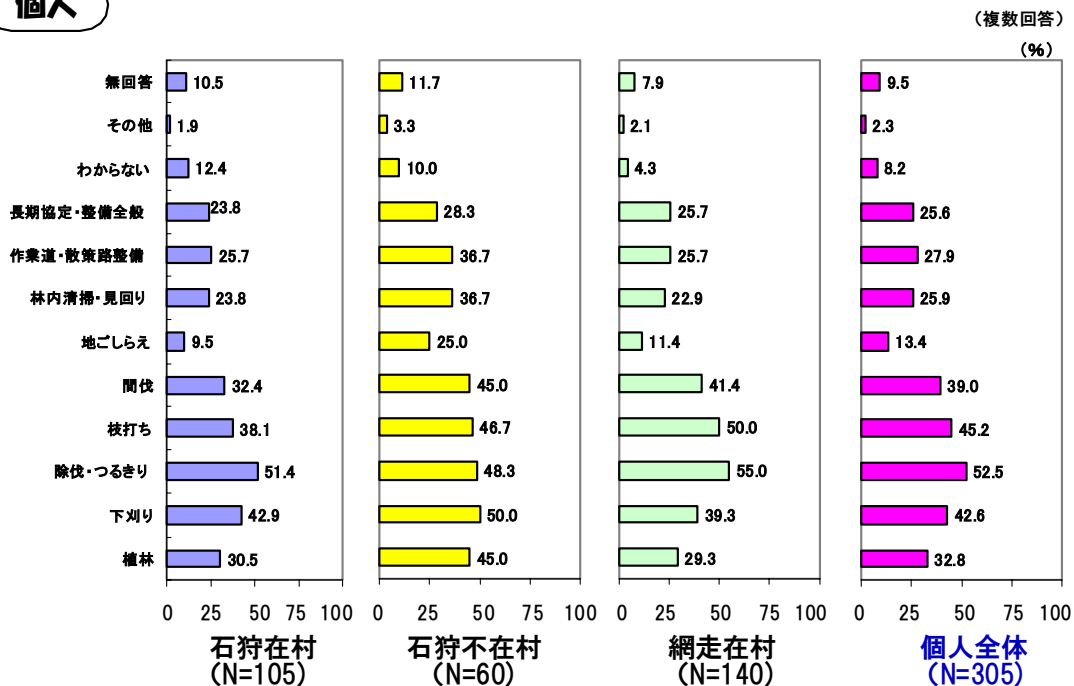
個人は、全体では「除伐・つるきり」が多く約53%、次いで「枝打ち」が多く約45%を占めました。

組織体では、全体では「除伐・つるきり」と「林内の清掃や見回り」が多く、各約42%を占めました。

また、「長期協定による森林整備全般の作業」は個人で約26%、組織体で約21%を占めるに留まり、所有者には比較的短期間に作業種を限って手入れを依頼したいと望む傾向があることがわかりました。

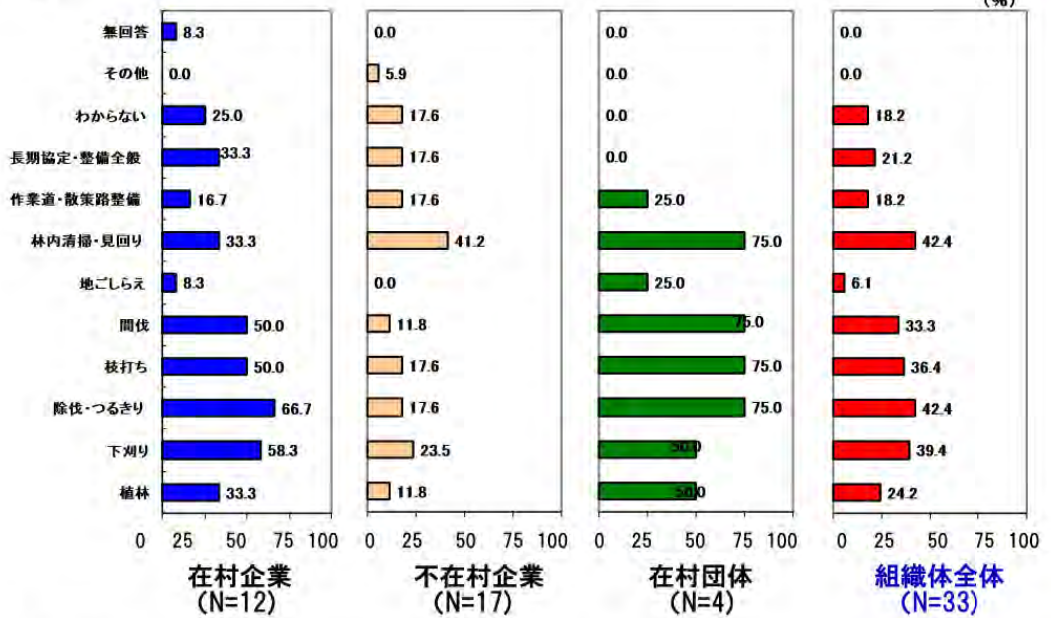
なお、問18で「ボランティアに期待はあるが、自分の森林は林齢やアクセス等の点で提供するのに適当ではない」を選択して本問に回答した数は、個人は全体の2.3%（7件）、組織体は3.0%（1件）でした。

個人



組織体

(複数回答)
(%)



他調査との比較IV

⑤ 森林ボランティアに依頼したい作業：全国データとの比較

今回の調査：在村個人 (石狩・網走計) (N=245)

「所有森林では、森林ボランティアにどのような作業を依頼したいと思いますか (複数回答)」



H14年度農林水産省実施
「林業生産活動等に関する意向調査」(N=1,399)

「森林ボランティアにはどのような作業を依頼したいと思いますか (複数回答)」



今回の調査では、全国での結果と比べ各作業を依頼したいとする回答がやや少ない傾向 (間伐、枝打ち、下刈りで約2/3など) が見られます。長期協定による森林整備全般的な作業を依頼したいとする回答は、全国とほぼ同程度の比率が得られたことがわかります。

問22 森林の提供以外で、森林ボランティアに協力できるとしたら、どのような協力ができますか（複数回答）。

個人

- 1 講師として作業を教える
- 2 作業と一緒に参加する
- 3 道具類の貸し出し
- 4 所有者同士のつきあいなどを利用して、ボランティアが利用可能な場所を紹介・斡旋する
- 5 交流会などイベントに参加する
- 6 特に協力はしたくない
- 7 わからない
- 8 その他

組織体

- 1 従業者を講師として派遣して、作業を教える
- 2 従業者と一緒に作業に参加させる
- 3 会員・構成員に呼びかけ、一緒に作業に参加してもらう
- 4 道具類の貸し出し
- 5 森林所有者同士、団体同士のつきあいなどを利用して、ボランティアが利用可能な場所を紹介・斡旋する
- 6 従業者を交流会などイベントに参加させる
- 7 会員・構成員に呼びかけ、交流会などイベントに参加してもらう
- 8 寄付など資金協力
- 9 特に協力はしたくない
- 10 わからない
- 11 その他

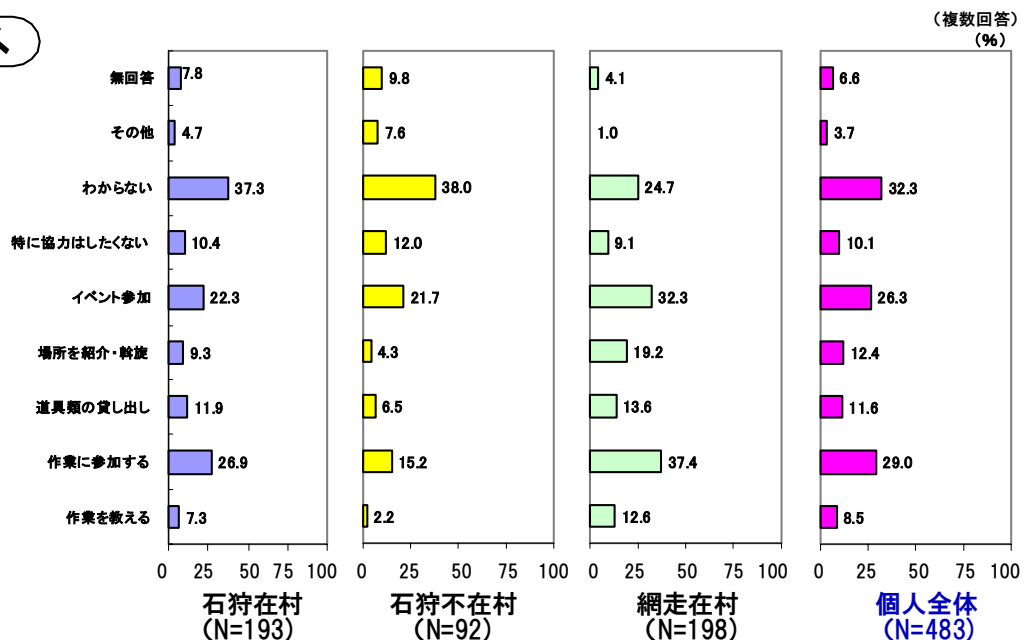
協力意志はあるものの、協力の方法は「わからない」が多い

個人は、全体では「わからない」、「作業と一緒に参加する」、「交流会などイベントに参加する」が多く各30%前後を占めました。上位を区分別にみると、石狩在村・不在村で「わからない」が単独最多であり、一方網走在村では「作業と一緒に参加する」が最多であるといった違いがみとめられます。

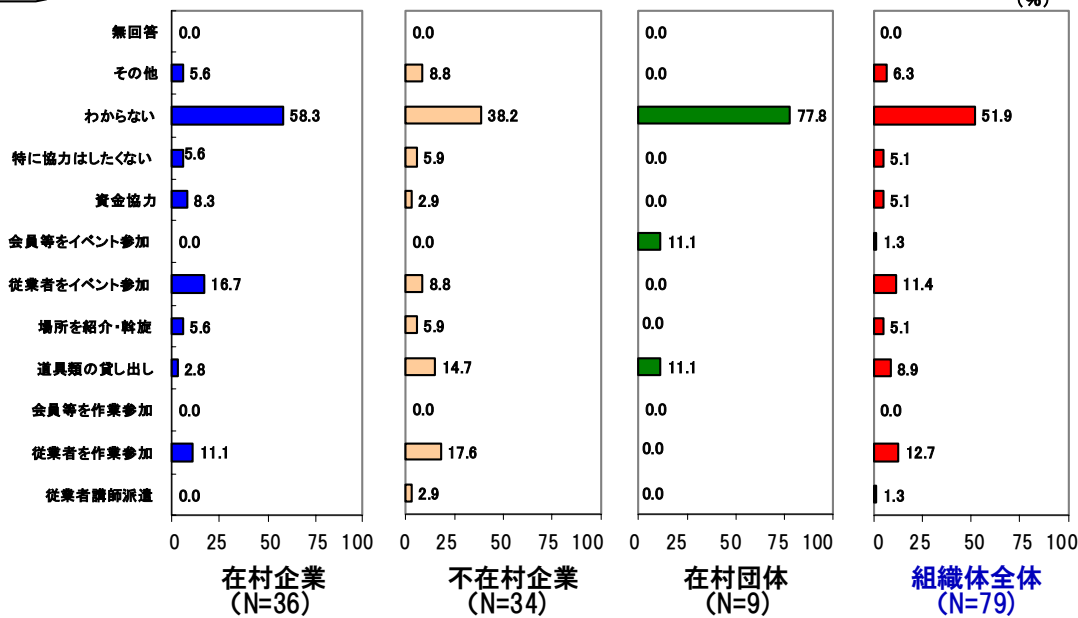
組織体では、全体では「わからない」が抜きん出て多く約52%を占めました。

個人・組織体とも「特に協力はしたくない」は全体の1割程度に留まりました。

個人

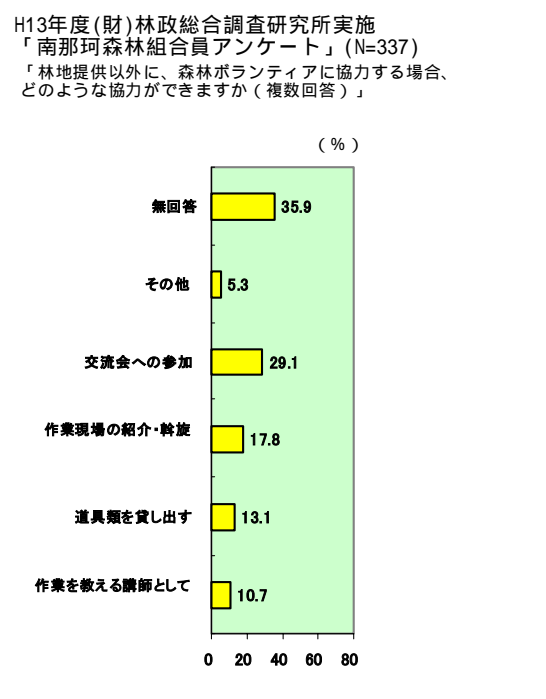
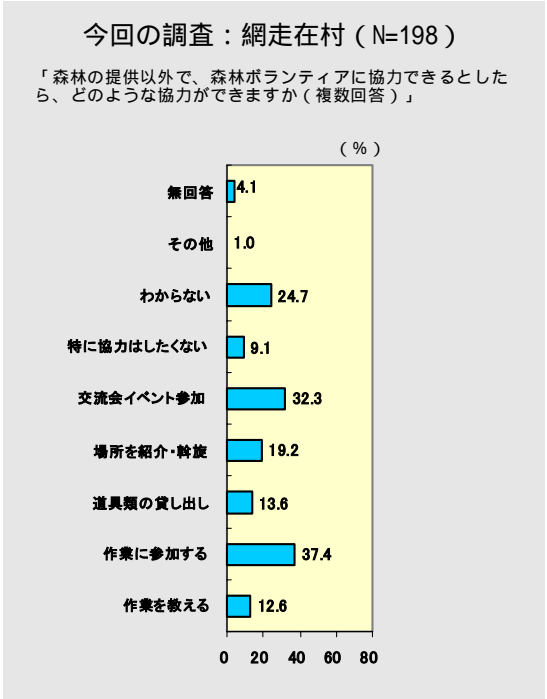


組織体



他調査との比較

森林提供以外で森林ボランティアにできる協力について



技術や物品、人脈等何らかの資源の提供よりも、作業やイベントに共に参加するといった「交流」の形で回答が多数であった今回の調査結果は、南那珂地域の結果とほぼ同じ傾向であることがわかります。

情報提供・交流

- ・森林ボランティアというのは、始めて知った。もう少し、CM等でアピールするのはいいのではないかと(網走、40代、団体職員)。
- ・森林管理や森林ボランティアに関してまったくわからないので、おしえてほしい(石狩在村、40代、団体職員)。
- ・ボランティアによる森林管理は良い方法と思うが活動の具体的な例を紹介し理解を深めては(石狩在村企業、恵庭市、その他のサービス業)。
- ・交流会等に参加したい(網走、70代、農林漁業)。

森林ボランティアへの期待

- ・高齢化により、森林管理などボランティアに依頼出来れば以後安心です(網走、70代、無職)。
- ・森林は一個人だけのものではなく国の貴重な財産と心得ており、豊かな森林を保護育成する事は大切。森林ボランティアの考え方、内容が今一つ分からないので一概に結論は出せないが、今後に期待したい(石狩不在村、60代、商業・サービス業)。
- ・森林管理は自然を大切にすることで大変重要な事です。どうか、森林ボランティアを組織化して、私有地だけでなく全ての山を管理する必要がある様に思います(石狩在村、60代、自由業)。
- ・当法人の山林は、すでに市民の森としてお貸ししています(石狩不在村企業、千葉県柏市、社会教育関係団体)。

所有権侵害に不安

- ・山林は農地の周りに位置しているので、基本的には農地として利用したい。条件的に無理なところは再利用を考えてもいいが、他人が集まるようになると制約を受けるので面倒。例えば自然保護だとか所有権を侵害するような事を言うてくる(石狩在村、60代、農林漁業)。
- ・ナショナルトラストAと云う団体が一口500円で基金集めをしているようです。私の土地には小鳥のエサ台、リスのエサ等も設置してあります。私には連絡もなく承知した覚えもありません。これは森林ボランティアとは違うのでしょうか。その団体の資料では私のところは買い上げ最優先地域となっております(石狩不在村、60代、無職)。

森林ボランティアの技術

- ・私の森林は、森林組合と長期施業委託契約を締結しています。森林ボランティアのリーダーは専門知識を修得して活動してほしい(石狩在村、70代、農林漁業)。
- ・林業はボランティア的遊び半分では出来ないの、森林管理はプロに任すべきです(石狩在村、60代、農林漁業)。
- ・ボランティアの一時的な気持ちでは木が育つとは思えないので、30年～50年をかけて育てていく気持ちでやらなければいけないと思います(石狩不在村、70代、農林漁業)。
- ・技術などの点でボランティアにはあまり期待をしていない(石狩在村、70代、農林漁業)。
- ・森林ボランティアだけでは難しいので、森林組合の技術者の協力の上、参加するとよい(網走、60代、農林漁業)。
- ・林業マンとしての知識や技術、そして忍耐と体力は、何年もの苛酷な体験を通して身につけるものです。そう言う意味では、森林の保育、管理を森林ボランティアに期待するのは基本的に困難ではないかと思えます。しかし、ボランティアを通して森林への理解を深めてもらうことはとても意義があります。森林・林業の現状と原因を広く知ってもらい、有効な対策を講じるための知恵を出し合うべきでしょう(網走、50代、公務員)。

教育などに活用したい

- ・環境学習・森林育成の重要な場として提供し、奉仕したい。林業経営が成功するような環境整備を国の為の奉仕を行えるようにする法的・財政的整備が必要である(石狩在村、70代以上、無職)
- ・住宅地の中にある林なので、固定資産税・相続税もばかにならず、いつまで持ち続けられるか不安もある。下刈等、アルバイトの方をお願いしてやっているが、地元の子供達に解放して自然に親しんでもらう機会が多くなればとも思っている(石狩在村、60代、商業・サービス業)。